

令和7年度 定期モニタリング評価表（年間）					公表用	
施設名	枚方市立生涯学習交流センター・市駅前図書館	所管部署 (連絡先)	観光にぎわい部文化生涯学習課（072-841-1409） 教育委員会中央図書館（050-7105-8110）			令和8年6月実施

この定期モニタリングでは、以下の表の評価項目・視点により確認を行いました。

評価項目		評価の視点	
1 業務の履行状況		事業・業務等が適正に実施されているか否かについて、実施状況・実施体制を確認します。	
(1) 選定時の基準（確認事項）・事業計画の内容（目標）に関する事項	市民ニーズの把握・対応状況	アンケート調査等の実施により、市民（利用者）のニーズを把握し、その結果を踏まえて改善を行っているかについて確認します。	
	経済性	料金収入や委託料等の収支状況について、当初の収支計画と乖離がないか、適正な内容となっているかについて確認します。	
	サービス水準	指定管理者によるサービス水準が適切なものとなっているかについて確認します。	
	リスクマネジメント	緊急事態発生時や機器・設備故障時等における対応状況や、対応体制・対応方法について確認します。	
(2) 施設の管理運営に関する経費の収支状況（使用料の収入実績を含む）			
(3) 募集要項・仕様書記載事項等に関する事項			
2 業務の継続性・安定性		指定管理者の財務状況が継続的、安定的にサービスを提供できる状態にあるかについて確認します。	

施設の概要等			
所在地	枚方市岡東町 1 9 番 1 号	主な業務内容	【生涯学習市民センター】 ・生涯学習活動に係る情報の収集及び提供を行うこと。 ・生涯学習活動に係る交流の促進その他生涯学習活動の支援を行うこと。 ・センターの施設及び附属設備を生涯学習活動及び協働によるまちづくりに係る活動の用に供すること。 ・センターの施設等を社会教育法(昭和24年法律第207号)に基づく社会教育事業の用に供すること。 【図書館】 ・教育と文化の発展に係る図書館事業の実施に関すること。 ・読書案内及びレファレンスに関すること。 ・図書館資料の選択、貸出し、整理、修理、保存および除籍に関すること。
設置目的	【生涯学習市民センター】 市民の学習活動及び芸術等の文化活動を支援するとともに、地域におけるコミュニティ活動の活性化を促進することにより、市民が生涯にわたって学び続けることのできる環境を醸成し、並びにこれらの活動を通じた市民との協働によるまちづくりを推進する。 【図書館】 図書その他必要な資料を収集し、整理し、及び保存して市民の利用に供し、その教養、調査研究、余暇活動等に資するため、図書館法の規定に基づく図書館を設置する。		
指定管理期間	令和 6 年 6 月 1 日から令和10年3月31日 (2024年 6 月 1 日から2028年3月31日)		
指定管理者			
名 称 (JVの場合はグループ名)	株式会社図書館流通センター	代表団体 (JVの場合)	
所在地(JVの場合は代表団体の所在地)	東京都文京区大塚三丁目 1 番 1 号	構成団体 (JVの場合)	

1 業務の履行状況

(1) 選定時の基準（確認事項）・事業計画の内容（目標）に関する事項

評価ポイントごとの評価基準	
5	計画以上に独自の新たなサービスを提供し、特に良好な管理運営を行っている。
4	計画以上の良好な管理運営を行っている。
3	計画どりの適正な管理運営を行っている。
2	一部計画どりにできていない、又は改善が必要であるが、概ね適切な
1	全く計画どりにできていない、又は一部不適切な管理運営が行われて

評価ポイント	指定管理者による一次評価		所管部署による二次評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由
【施設の経営方針に関する事項】				
①施設の現状に対する考え及び将来展望				
施設の設置目的等を踏まえた現状認識及び今後の方向性が明確に提案されている（確認事項9）				
・現状認識を踏まえた管理運営目標「すべての人に開かれた暮らしを彩る学びと体験のインフラ」に基づく、各事業・サービスを実施しているか。	3	センターでは今年度も仕様書の規定数を上回る60本の事業を、図書館では年間190本以上の事業を、それぞれ計画して実施。「市民主体のまちづくり」の伝統を継承する、新しい時代の生涯学習・社会教育を体現すべく、幅広い事業を行い、市民や来館者に「経験」や「体験」、「学ぶ楽しさ」、「つなげる喜び」として還元している。	3	管理目標に沿った事業・サービスを実施しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どりに運営していると判断できる。
・公平性・平等性の観点に特に重点を置き、子どもからシニアまですべての市民がまちづくり、市民活動、生涯学習、読書活動を謳歌できる管理運営を実現しているか。	3	枚方市の目指すまちの姿「持続的に発展し、1人ひとりが輝くまち枚方」を実現すべく、「すべてのひに開かれた暮らしを彩る学びと体験のインフラ」を目標に掲げ、公の施設としての公平性・平等性に重点をおき、駅前再開発の目玉として交流とにぎわいを作る事業を実施し、子どもたちの体験格差をなくすべく、すべての市民があらゆる活動を楽しめるような運営を実施している。 またイベントの受付についても「事前告知」「抽選予約」を基本とし、一部の市民や利用者にのみメリットが享受されることのないように図っている。	3	様々な市民や利用者に配慮した事業・サービスを実施し、公平性・平等性に重点を置いた管理運営をしているため、本市要求事項を満たし、事業計画どりに運営していると判断できる。
②施設運営に関する計画				
ア) 管理経費・管理体制の提案				
関係法令及び本市条例・規則を遵守し、施設の設置目的に沿った運営計画が提案されている（確認事項11）				
・スタッフ全員が執行する「ライブラースタッフハンドブック」などに基づく必須研修や管理運営に関する研修等の実施による法令遵守体制を構築しているか。	3	入社時に行う必須研修の他、スタッフの習熟レベル・段階ごとに研修を実施、様々なニーズにこたえられるようにスタッフ教育を行っている。また、法令遵守体制を維持するべく、年に1度は必ず個人情報に関する研修及びテストや監査を受けることで、全員の意識を統一させている。	3	管理目標に沿った事業・サービスを実施しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どりに運営していると判断できる。
・設置目的に沿った運営計画を策定し、計画に基づいて運営を行っているか。	3	設置目的を理解し、さらに管理運営目標である「すべての人に開かれた暮らしを彩る学びと体験のインフラ」を達成するべく事業計画を策定している。	3	様々な市民や利用者に配慮した事業・サービスを実施し、公平性・平等性に重点を置いた管理運営をしているため、本市要求事項を満たし、事業計画どりに運営していると判断できる。
業務繁忙時にも対応できるよう、施設に必要な従事者を適正に配置するとともに、利用者サービスの向上、効果的・効率的な管理運営の観点から踏まえた実施体制等について提案されている。（確認事項12）				
・混雑状況に応じた弾力的な人員配置を行っているか。	3	センターと図書館の一体運営であることや、カウンターが同じ場所にあることから、どちらの利用者が来てでも双方のスタッフが1次対応ができるように訓練や教育を行っている。具体的には、それぞれのカウンターでの対応はセンター・図書館共にどちらの要件でどちらのカウンターに利用者が来られたとしても分け隔てなく対応し、双方のスタッフが利用者の要件（来館目的や内容）をしっかりと聞き取りしうたうえで、目的のカウンターへお繋ぎし、利用者にとって不便や不利益のないように図っている。	3	双方のスタッフが1次対応できるような体制を整えるなどセンター・図書館の相互の協力体制を整え、大型イベントなどの際には市内内外の図書館から応援勤務を実施するなど弾力的な人員配置を行っているため、本市要求事項を満たし、事業計画どりに運営していると判断できる。
・他館スタッフの人的バックアップ及び支社・本社による支援体制を構築しているか。	3	オープン時の繁忙期間や感染症などで一時的に勤務が出来ないスタッフが出た際などは市内内外の弊社受託館から応援勤務を実施し、利用者対応に不備がないように対応している。今後も同様に大型イベント開催時や休日等の繁忙期には、必要時には厚めに、平時や閑散期にはスリムな体制になるように事前にシフトを調整するなど、無駄のない弾力的な人員配置を行っていく。 なお、令和7年9月に実施した周年イベントでは、他館スタッフ2人と関西支社のエリアマネージャー3人が応援に入り、現場の混雑緩和・案内などに努めた。	3	欠員の際には市内他館からのフォローなど管理運営に支障が無い支援体制を構築しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どりに運営していると判断できる。
・優れた管理運営を行うための、管理運営基本研修や、専門研修、センタースタッフ育成研修など人材育成研修を実施しているか。	3	大阪ガスビジネスクリエイトと協業し、センター業務・生涯学習業務について毎月1回程度の定例的な会議の場を持ち、実務面での相談対応やフォローを受けることで、さらなる人材育成や教育の一助としている。昨年度よりは少しずつ自分たちでできることや考えられる部分も増えているが、枚方市での受託実績がある大阪ガスビジネスクリエイトとの協力体制を引き続き維持・構築することで、枚方市の社会教育施設における管理運営への知識、認識をよりアップデートするよう務めている。それらに加え自分たちでもQAシートの作成・配布による業務知識の再確認やアップデートを行い館内でのロールプレイング研修等により実践的な研修を自分たちでも都度行っていくことで、より精度を深めている。 これらを通じて接遇力アップ、さらなる能力向上を定期的・計画的に図り、それ以外でも専門研修やビジネスマナーに特化した内容の研修等、社会教育施設を運営するうえで必要な事項や情報を共有するための研修等を適宜受講することで、スタッフ全員が優れたサービスを提供できるように研鑽をしている。	3	枚方市の生涯学習市民センター4館の運営実績がある大阪ガスビジネスクリエイト株式会社との協力のもとスタッフ研修を行うなど、施設の運営に関して必要な人材育成研修をしているため、本市要求事項を満たし、事業計画どりに運営していると判断できる。
事務スペースが1か所に集約されていることを踏まえ、業務を実施するための従事者の兼任など、有効な業務実施体制や人員配置及びスペースの有効活用等に関して提案されている。（確認事項13）				
・図書館の専門的知識を要しない範囲の業務における、運営スタッフの生涯学習業務と図書館業務の兼任。また、サービス向上の観点から「地域連携・広報サプリーダー」として「広報担当者」「地域連携担当者」を配置するなど、人員配置計画を策定し、実際の業務量等により柔軟に対応しているか。	3	当初提案した人員配置計画通りの体制を実施している。	3	適正なスタッフの配置に加え、「広報担当者」「地域連携担当者」配置しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どりに運営していると判断できる。
・生涯学習や地域活動等の経験を有する者、司書資格保有者、図書館勤務経験者、地元在住者など、各要件を満たす人材を確保するとともに、採用に当たってはダイバーシティの観点から多様なバックグラウンドを持つ人材を公平に選考・採用しているか。	3	当初提案した人員配置計画通りの体制を実施するうえで、経験や資格保有者の数など、各要件を満たすことはもちろんのこと、年齢、性別、経歴等で多様なバックグラウンドを持ち、センターと図書館の運営に意欲的な人材の採用と確保を行っている。 加えて、提案した「広報担当者」「地域連携担当者」をそれぞれ配置し、さらなるサービス向上に努めている。「広報担当者」は館内の掲示物やイベントチラシ、ポスターなどの作成、またSNSで施設の様々な様子を発信することで館内外のブランディングイメージの維持管理、「地域連携担当者」は新規事業の企画立案・関係者との調整などを業務の中心となっており、これまで地域連携担当者が自ら企画・または関係者を呼び込んで立ち上げた企画は以下の通り(令和7年度のみ)。 令和7年4月実施「気軽にジャズピアノ!」、「珈琲好きな方、集まれ!」、「子育てパパ交流会」(このほか、令和7年7月と12月の全3回実施)、 令和7年5月実施「連続講座 初心者のためのクラシック 第1回 初心者のためのクラシック」(以降、令和7年12月、令和8年1月の全3回実施)、 令和7年6月実施「スポーツ自転車を知ろう!」 令和7年7月実施「盆栽」×「ジヨマ」で作る! 手のひら「盆羊」ワークショップ」(以降、令和8年2月の全2回実施) 令和7年10月実施「アレルギを学ぼう! やさしい米粉のお菓子ができるまで」 令和7年11月実施「連続講座「食とアレルギ」 第1回 食物アレルギ全般のお話」(以降、令和8年1月・2月の全3回実施)、「カリグラフィー講座 モタンカリグラフィーでXmasを書く」、「初心に返って楽しむハード&メタル・ロック」 令和8年2月実施「ピアノ・ボカール・ユニット・コンサート」 また、ダイバーシティの観点からも国籍や性別、世代で区分することなく多彩な採用を実施し、多様なバックグラウンドを持つスタッフがそれぞれに多角的な運営ができるよう人員配置を実施している。	3	ダイバーシティの観点から採用を行っており、館内外のブランディングイメージの維持管理を行う「広報担当者」、新規事業の企画立案・関係者との調整などの中心となる「地域連携担当者」を配置し、多角的な運営を行っていることから、本市要求事項を満たし、事業計画どりに運営していると判断できる。

	・指定管理者が作成している業務改善に関するガイドラインを参考に、スペースの有効活用や業務方法について検証し、効率的・効果的な運営体制を構築しているか。	3	事務所および倉庫などのスペースはセンターと図書館で共有するなど、スペースを有効活用している。また、人員だけでなく備品類も共有することで、より効果的・効率的な運営を実施している。	3	スペースや備品を生涯学習市民センターと図書館で共有することで、効果的・効率的な運営体制を実施しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
(イ) 利用者サービス向上提案（生涯学習交流センター）					
諸室の利用率増加に向けた取組み及び活動する団体の登録数の増加に向けた取組みが具体的に提案されている（確認事項14）					
	・接遇研修・アグレッシブホスピタリティ研修や清潔空間の維持、館内の装飾といった日常的な取組みに加え、休館日を活用したセルフチェックの実施など、快適性の向上に向けた取組みを行っているか。	3	「誰もが利用できる」から「誰もが利用しなくなる」を目指し、引き続き「より居心地の良い空間づくり」に取り組んでいる。 「荷物置き場」のカゴは設置後利用者からの評判もよく、ロビー内でも便利に使っている姿が見られる。 センターの利用促進策として、新規利用者の獲得と新施設設備の披露を兼ねて、令和7年8月15日（金）と令和8年1月4日（日）にイベント「交流センター ルームツアー」を実施した。（令和7年8月実施 参加者1人、令和8年1月実施 参加者0人、ともに定員30人）各諸室の様子や貸出備品の説明など交えた、30分程度の動画を鑑賞した後、交流ロビーや屋上スペースなどの各所をリアルに紹介した。参加者は今後センターでの諸室利用を前提にしておられる方だったようで、イベント中も終了後も、「より詳細を知りたい」と質問を熱心にされるなど充実した内容となった。 参加者の増加に向けてルームツアーの参加者を「当日先着」での受付としていたが、次年度以降は参加者を増やすべく「事前申込制に変更する」「館内にいる人に声を掛ける」「新規利用者（ID登録者）に案内をする」等の工夫をしている。 その他、毎月の休館日を利用してセルフチェックとして、備品の定期的なチェック（数量の過不足チェックや保管場所の確認等）や、カウンター対応を中心とするOJでの現場対応の平準化等、より施設利用者に満足いただけるような取組みを日々行っている。	3	館内装飾をすることで、明るく居心地の良い空間づくりを行うなど快適性の向上に向けた取組みを行っているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
	・掲示物の適切な管理、チラシ類の効果的な情報管理・発信、デジタルサイネージの効果的な活用、活動メンバー募集ポスターの掲示・チラシの配布といった利便性の向上に向けた取組みを行っているか。	3	掲示板を「枚方市からのお知らせ」「活動団体の会員募集」「交流センターからのお知らせ」「図書館からのお知らせ」等と内容別に掲出する場所を分け、より効果的に発信できるように掲示・管理している。 また、自主提案で用意したデジタルサイネージでは、各月に開催されるイベント情報を発信。館内でのイベント情報の告知に活用することで、利用者への積極的な情報発信を行った。交流ロビーを使用する人、サークル活動にやってきた人、図書館利用者、すべての人に広く情報発信が出来るように取り組んでいる。	3	日々、他の施設や利用者から寄せられるチラシについては、整理の上、掲示・管理され、デジタルサイネージではイベント情報を発信するなど、利用者の利便性の向上に向けた取組みを行っているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
	・地域の関係団体、民間企業や地域外の人々、団体とも連携・協働した「共創」による事業の充実がなされているか。	4	昨年9月のグランドオープニングイベントに引き続き、今年度も周年イベント「(k)not hirakata 2025 によき」では、普段センターでサークル活動を行うサークル団体以外にも、下記の市内の近隣施設や団体に協力いただき、多種多様な事業を13個実施した。これらは特に意識して行ってきた活動であり、地域連携担当スタッフが細やかに地域の人とのつながりを作ったからこそ実現できた。「センターまつり」では、このつながりを生かして、地域の方々や団体、店舗の事業主に各種イベントの開催を依頼した（講座、ワークショップ、セミナー、飲食物販売等）。これらの方々が、講師としてのイベントの開催や、物販ブースに出店いただくことで、2日間の来館者約4,000人（通常の2倍の来館者）を達成した。以上のことから、地域に根差した「共創」による、市駅前地区の「地域のにぎわい創出」という目的を達成することができたと考えている。 具体的な例としては以下の通り。 【地域市民連携】 大阪府立枚方なぎさ高校吹奏楽部「オープニングロビーコンサート」（参加84人 定員30人） グルクンマスク「現役プロレスラーが直接指導！ 大人のための自重トレ講座」（参加16人 定員40人） 【地域団体連携】 テイク・ラボ「テイク・ラボの工作教室 輪ゴム銃を作ろう」（参加13人・キットのみ購入者7人 定員20人） 星ヶ丘洋裁学校「星ヶ丘洋裁学校の手作り小物ワークショップ」（参加19人 定員30人） 枚方演奏家クラブ「イブニングコンサート」（参加56人 定員60人） モスカーピングクラブ「ソーパーキング」（参加8人 定員12人） 写真塾「お散歩カメラ」「カメラとスマホで『ゆるっと写真を楽しもう』」（参加7人 定員15人） センター活動団体(全7団体)「サークル活動発表会」（参加 157人（延べ） 定員70人） 【地域民間連携】 T-site「コトリンゴ トークショー『わたしの7曲』」(企画協力)（参加43人 定員60人） 後醍醐焙煎所 珈琲・リングジュースの販売（＊） タムタムバウム 米粉バウムクーヘン販売（＊） alley 米粉シフォンケーキの販売（＊） NEGLIMIT 米粉シフォンケーキの販売（＊）	4	「地域市民連携」「地域団体連携」「地域民間連携」を行い、多様な事業展開を行っている点や「地域連携担当」を中心に市内の事業者の新規開拓も行い、新たな連携・協力が生まれることで、これまでの生涯学習市民センターでは行っていなかった事業を実施している点について、計画以上の良好な管理運営を行っていると評価できる。今後も様々な関係団体と連携しながら、事業を充実させていくことを期待する。
	・枚方モールに入居しているテナントや周辺施設との連携、周辺施設へのPRカードの設置といった立地を生かした広報戦略を行っているか。	3	周辺施設である「枚方ビオルネ」「枚方T-SITE」とは、昨年9月のオープニングイベント以降も引き続き連携して推薦圖書の展示や、お互いのイベントチラシ・パンフの設置等での連携を実施している。 令和7年9月23日(火・祝)実施の「AROUND HIRAKATA(オータム)」にて、図書館では「絵本広場」での絵本紹介や青空おはなし会を、センターでは1日2回の「ロビーコンサート」を実施することで、イベントを通じての枚方モール全体の集客や周辺地域への「にぎわい創出」へ貢献した。 枚方モールに入居しているテナント「shuku56」には、昨年9月のグランドオープニングイベント時にイベントパンフの設置をしていただいた以降、引き続き広報誌knot(e)sやPRカード(ショップカード)の設置などを行なうことで連携を継続している。 他にも「トンデミ」には、「子ども向け」「体を動かす」等、テナント事業と親和性の高いイベントを行なう際には、イベントの告知チラシを置いてもらうなどの形で告知に協力いただいている。 12月27日(土)には、枚方市穂谷の放置竹林問題に取組む団体「枚方竹林工房 銀」と枚方市駅周辺の花屋「fureru.」との共催で、ミニ門松づくりのワークショップを実施した。正月の前に市民の関心の高いワークショップを行うことに加え、材料に枚方市内の竹を使用することで、放置竹林の問題にも目を向けていただく機会となった。	3	周辺施設と連携し、チラシ等の設置を行うとともに、入居する商業施設との催しに合わせたイベントの開催等、立地を活かした取り組みを行っていることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
	・見学ツアーやバーチャル諸室案内、YouTubeによる活動動画の録画配信、SNSによる情報発信・活動のライブ配信といった、諸室や活動の様子を気軽に鑑賞することができる機会の提供を行っているか。	3	HPでは開館前に「360度バーチャル諸室案内」を掲載し、新施設の状況をいち早く市民の皆さまや利用者にお知らせし利便性の向上に貢献したほか、2024年9月のオープニングイベントの様子は記録映像として「ダイジェストムービー」をYouTubeの登録チャンネルにアップしている。SNS(Instagram)では、日々の活動やイベントの様子をお知らせしている。 その他にも、令和7年8月と令和8年1月には、昨年度に引き続き「交流センタールームツアー」を実施。室内の様子や貸出備品の紹介等を動画で行い、参加者の貸室の利用促進を促している。 その他、施設のInstagramの登録者数は開設後6か月でフォロー1,000人を突破した。（令和8年5月1日現在のフォロー数は1,302人） 今年9月に行った開館1周年の記念イベントである「(k)not hirakata2025」では広報スタッフがその様子を記録写真として撮影し、令和8年2月には「写真展 によきの記録」を交流ロビーで開催することで、イベントに参加した方、参加できなかった方の両方が同じように楽しめるように工夫をした。またこの写真展を見たサークルや来館者が「次のイベントには参加したい」と思わせる仕掛けの一つになっていたと思われる。 その他にも、開館以来、引き続き問い合わせの多い施設への「アクセス」(施設への行き方・導線ルートの案内)について、令和8年3月に案内動画を3本完成させ、施設の公式YouTubeチャンネルにアップした。こちらも「今までよりもわかりやすい」と来館者から好評をいただいている。 令和8年4月に施設のホームページにも、このYoutube動画を使った「アクセス」ページを作成。より「わかりやすい」「アクセスしやすい」環境を作っている。	3	バーチャル諸室案内をすることで、施設の状況を気軽に鑑賞することができる機会を提供していた。また、instagramを用いて、日々の施設の様子やイベントの模様を細かに発信するなど、諸室や活動の様子を気軽に鑑賞することができる機会の提供を行っているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。

	・登録団体の協力による活動体験会やオンラインでのイベントお試し枠の提供、活動団体の立ち上げサポート、登録団体によるトークセッションといった体験する機会の提供や体験者・利用者・活動団体の声の発信を行っている。	3	実際に活動状況やサークルの雰囲気を見ていただけるような「サークル活動見学会」を令和7年6月16日～29日の約2週間で開催。（参加サークル13団体、参加者 9人） 見学OKのサークルには「見学OK」のPOPを入口に掲げていただくことで、より自由な交流が図られるように工夫した。この結果、実際にこの見学した方の中から「来年度の活動参加希望者が現れた」と、参加サークルの方から喜びの声をいただいた。このイベントは今後も年1回程度続ける予定にしている。 他の時期では、広報誌knot(e)sでは2025年1月号以降、引き続き紙面内のコーナー「学び百景」にて活動団体の紹介を実施している。他団体からも「自サークルの紹介も載せて欲しい」という声があるなど、その反響は大きい。（これまでに6団体を掲載され、令和7年度には4団体を掲載した。今後も継続予定）	3	センターだより「knot (e)s」紙面内のコーナー「学び百景」に掲載したセンター活動団体の紹介では、実際の活動団体の声の発信を行っているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
ローピーを含む生涯学習交流センター全体の利用者数の増加に向けた取組みが具体的に提案されている（確認事項15）					
	・混雑状況の可視化・発信や、ICT機器の操作に不慣れな利用者に対するデジタル・コンシェルジュによるサポートを通じた気軽に来館・利用できる環境づくりを行っている。	3	HPIには、混雑可視化のアイコンを設置し、朝・昼・夕方の1日3回程度更新している。 また、センターに設置している施設予約システムのパソコンの操作については、全スタッフが「デジタル・コンシェルジュ」として、パソコン画面の操作方法等でお困りの方がいらっしゃる場合は丁寧に確認し、操作方法や使い方の説明などを日々行っている。	3	混雑状況をアイコンにより可視化し、施設予約システムの操作については、全職員が案内できるような体制を整えるなど気軽に来館・利用できる環境づくりを行っているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
	・ローピーを有効活用した、子ども向けのローピーワークショップ、ローピーコンサート、ローピー健康体操イベント、展示スペースでの市民活動団体によるギャラリートークといった市民参加型ミニイベントの実施を行っている。	4	子ども向けローピー工作は今年度5回、全年齢向けのローピーでの工作系イベント1回、ローピーコンサート3回の計9回を実施した。 予約必須のイベント以外にも、「交流センターに来れば、何かやっている」「何か面白いことに出会える」という期待感や来館の動機づけ（来館数アップのためのしかけづくり）を行っている。これらのことから、センター利用・図書館利用など、目的があっても来館した人以外にも「学びや興味のきっかけを作る」という、自然な参加型イベントの実施、市民が主体的に、「自ら学ぶ」「自身の興味に気づくこと」ことへの導線を複数回に渡って作ることでより多くの人のたちへ、センター利用を含む生涯学習をはじめとする「学びの門戸」を広く開きかけをつくことができた。 ・ローピー工作（子ども向け） 交流ローピーでふりと立ち寄れる気軽な子ども向け工作イベントは、「敷居が高くなく、参加しやすい」「子どもたちも満足した」との声をいただいている。 「交流センターde遊ぼう（おりがみ・かぶと/ぬりえ）」令和7年5月4日（日）実施（参加者 大人31人、子ども33人 定員40人） 「ポップアップ・アンブレラ〜パッとひらいて、かさをさそう〜」令和7年6月14日（土）実施（参加者 大人17人、子ども16人 定員35人） 「夏だ！ うちわに絵をかこう」令和7年7月6日（日）実施（参加者 大人12人、子ども15人 定員30人） 「風鈴をつくってみよう」令和7年8月17日（日）実施（参加者 親子27組 定員20組） 「交流センターdeお正月④「スタンプカード」」令和8年1月4日（日）実施（参加者 49人（大人20・子ども29） 定員40人） ・ローピーイベント（創作系・全年齢向け） 「レトロな木版・金版でポストカード・ブックカバーを作ろう」令和7年6月28日（土）（参加者 30人 定員40人） 年齢不問で参加できる創作系イベントを広げた交流ローピーで開催。 京都最古の出版社「法蔵館」より講師を招き、江戸・明治・大正期から伝わる「木版」「金版」を使って自由にスタンプし、オリジナルのポストカードやブックカバーを作ることができる企画。近隣のこまば公園で同日開催の出版系イベント「ブックバザール」（図書館でもブース出展あり）に合わせて同日に開催することで、市駅前周辺の「にぎわい創出」に貢献した。 大人も子どもも楽しめる内容に、家族で参加し、じっくりとお気に入りの版を探したり、押し場所を思案するなどそれぞれに楽しむ参加者の姿はもちろんのこと、法蔵館のスタッフが持ちこんだ「刷り本」（江戸時代の印刷技術で作成した本）や「版木」の解説を順次見学者にも行なうなど、ローピー開催という立地を生かして、イベントに参加した方だけでなくまたま通りすがっただけのセンター利用者・図書館の利用者にも、誰もが気軽に「学び」「発見」があるイベントとすることができた。 ・ローピーコンサート 「ようこそローピーコンサート」令和7年8月2日（土）実施（神野朋子（枚方演奏家クラブ所属）出演、参加者 53人・全2回 定員60人）、 「ローピーコンサート EnsembleQoo木管五重奏」令和7年9月23日（火・祝）実施（EnsembleQoo出演、参加者 197人・全2回 定員60人） 「ハンドベル クリスマスローピーコンサート」令和7年12月20日（土）実施（Sonority出演、参加者 121人・全2回 定員計60人） 「良質な音楽を、気軽に楽しんでいたけように」とのことで、若手演奏家から、実績のあるベテラン演奏家まで、内容人選共に幅広く選定して実施。 参加者からも「こんな風に気軽に上質な音楽が聴けるなんて嬉しい！」「通りがかったらまたまやっていただけた、とても引き込まれた」「総文での本格的なコンサートにも行きたくなった」と大変喜ばれていた。 今後も引き続き同じ趣旨の企画を実施することで、交流ローピーの有効活用と施設の認知度アップ・駅周辺施設への利用者の周遊・還流を目指し、事業を継続していきたい。	4	ローピーコンサートやローピー工作など、図書館など別の目的で施設を訪れた市民も気軽に参加できるイベントが定期的に実施されており、生涯学習交流センター及び市駅前図書館全体の賑わいづくりの一助となっている点が計画以上の良好な管理運営を行っていることと評価できる。引き続きローピーを活用したイベントを実施していただき、来館の動機づけを行っていただきたい。
利用者にとって魅力的な物品販売や新たな備品の貸し出しなど事務所サービスが具体的に提案されている。（確認事項16）					
生涯学習交流センターの魅力アップのための備品等の新規設置等について、具体的なアイデアが提案されている（確認事項17）					
	・魅力向上・利便性の向上につながる、ボードゲーム、乳幼児用ハイチェア・授乳ケープなど事業計画に記載する備品の貸与や設置を行っている。	3	昨年度はボードゲーム19点、移動式鏡2点、譜面台5点を購入。今年度は利用者からの要望で移動式鏡をさらにもう1台増やし計3台として「希望の備品が貸出中で使えない」ということのないように取り計らった。（ボードゲームは施設でのイベント利用以外にも、若年層中心に諸室利用に含わせて月1回程度の利用あり） さらに、年度末にフランス系のサークルより4月からグループの人数増が決まっているため、なんとか年度内にもう一回り大きい鏡を購入してもらえないだろうか」との相談を受け、上記に加えてさらに追加で「三面鏡型の移動式鏡」（これまでのものより横幅約2倍）を1枚購入。このようにサークル活動の活気づけや意欲向上・活動発展にも配慮して備品の購入などを行っている。 今後も事業計画書に表記している購入予定の物品（授乳ケープ、乳幼児用ハイチェア等）やその他の物品についても、利用者の要望や状況に応じて都度検討し、タイムリーに対応できるよう、利用者ととの密なコミュニケーションを通じて対応していく。	3	事業計画に記載の備品のほか、利用者からの要望に基づき備品購入・貸与をしているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
ウ) 利用者サービス向上提案（図書館）					
図書館の新規利用登録者を増やすための取組みが提案されている。（確認事項18）					
	・スマート登録の周知強化、交流ローピー利用者登録会、商業施設やイベントとの連携による利用者登録会の実施、イベント申し込みと利用者登録との連動といった新規登録者を増やす仕掛けづくりを行っている。	3	・スマート登録やライン連携のQRコードをカウンターに常設し、問合せがあればすぐに案内を行っている。 ・図書館のイベントだけでなく、センターイベントのポスターなど図書館資料をならべ、イベント参加者にも図書館資料貸出誘導している。 ・総合文化芸術センターイベントの「H-Artsフェスタ」やステーションヒル枚方主催イベント「AROUNDひらかたオタム」など、外部イベント参加時に、その場での利用者登録方法としてスマート登録の案内を行った。なお、実際にスマートフォンなどを操作してその場で登録していただくまでには至っていない。また案内した人数をカウントしていなかったことから、令和8年度以降は案内した人数をカウントし実績がわかるようにする。	3	スマート登録やライン連携の周知、センターイベントとの連携などの取り組みは本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。また、総合文化芸術センターやステーションヒル枚方の外部イベント参加時にはスマート登録の案内を積極的に行っているが、今後は効果測定を行い、新規登録者を増やすためのさらなる取組を期待する。
図書館の来館者を増やし、貸出冊数を増やすための取組みが提案されている。（確認事項19）					
	・来館者が快適に利用できるよう、わかりやすい言葉遣い、公平性・平等性の認識と理解を高める研修の実施、書架整理の徹底といった日常的な取り組みに加え、休館日を活用したセルフチェックなど快適性の向上を図る取り組みを行っている。	3	・接客研修を実施する中で「書架」→「本棚」、「相互貸借」→「他の自治体から借りた本」など、利用者になじみのない言葉の言い換えを徹底。また、棚担当者を決め、書架の整備に努めている。 ・休館日には書架見出しの見直し、リニューアルを行い、常に利用しやすい環境を整えている。また日常の書架整理に加え、休館日には資料の利用状況や情報の新しさを目安に除架をおこない、快適な図書館づくりに取り組んだ。その結果、令和6年度に対する令和7年度の1日あたりの利用者人数は103.2%、貸出冊数は101.1%と着実に増加している。	3	利用者にわかりやすい表現を用いようとする取組に加え、利用者の移動の動線にあるオブジェの移設、コンセントカバー、返却ポストの角の手当てなど安全面に配慮されていることから本市要求事項を満たし事業計画どおり運営していると判断できる。今後も快適かつ安全に図書館を利用できる環境整備に向けた取組みを期待する。
	・利用者目線に立った、利用しやすい安全な棚づくり、利用者ニーズが高いパソコン・インターネット関係の資料をまとめた専用コーナーの設置、わかりやすい見出しの掲示、子ども用ステップの設置といった利便性の向上を図る取り組みを行っている。	3	・パソコン・インターネット関連資料を集めたコーナーの設置、見出しのブラッシュアップを実施している。 ・利用しやすい棚づくりのため、一般書のほぼすべての書架に面陳棚を設置。 ・令和7年1月、子ども用ステップを自動貸出機・返却カウンター前に設置。喜んで使っている姿が見られる。 ・令和7年3月、小説・エッセー・文庫・YA・漫画など150以上の書棚に、資料が棚奥に入り込まないようブックストッパーを設置。快適な棚づくりに取り組んだ。 ・7月おはなしスペース前に、このスペースの使い方の案内看板を設置。お子様連れの親御様が利用しやすい環境づくりに取り組んだ。	3	書籍の表紙を見せる面陳棚の設置は利用者にも好評である。また、書架見出しをブラッシュアップして利便性の向上を図るなどの取組みやブックストッパーは150個を設置済みで、棚の乱れが軽減され、利便性の向上に役立っていることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。今後も、児童書の面陳など、さらに利用者目線にたった魅了のある棚づくりに取り組まれるよう期待する。

・施設的设计コンセプトを体现する常設展示、交流ロビー・特設展示、季節を感じられる特設展示といったさまざまな特設展示による充実性の向上を図る取り組みを行っているか。	3	・ボタニカルウォールでは、「交流」をテーマに図書館員でなく枚方市内の様々な職業の方のおすすめ本の展示を継続。また、直近のイベントに関する資料や、終了したイベントで紹介した資料展示なども実施している。これらに加え、市民からの悩みを募集、図書館員がおすすめの資料とともに悩みにお答えする「教えて！ライブラリアン」という企画を新たに立ち上げ運用している。市民からのお悩みは、Instagramや館内二次元コードから募集し、図書館の発信だけでなく市民と図書館の交流を図っている。なお市民からのお悩みは、多い月で4～5件程度応募がある。 ・交流ロビーではセンター・図書館で実施する事業の関連書籍を随時展示している。また、図書館員による月ごとの展示を下記の通り実施し、様々な切り口の提案を行っている。 【上半期】 4月「ラッコのすむせかい」／5月「一服、どうぞ」／6月「梅にしたいわ」／7月「ともに育つ」／8月「水でうるおす、カラダとココロ」／9月「切ってひらく 紙のふしぎ」 【下半期】 10月「五、七で遊ぶ」／11月「いつも〇〇をれたのは」／12月「浮き世へ」／1月「時の壺」／2月「ソロ活」／3月「共生～人間と動物の関係について～」 ・また、枚方市の事業の一環として生涯学習交流センター展示スペースにて行なった「コシ・ジョンコ氏による自作の絵画（寄贈）の展示」「大阪・関西万博のポルトガル・ペリオンの「ロープ」と、パキスタン・ペリオンの「岩塩」展示」（令和7年11月18日（月）～12月21日（日））に合わせて、関連書籍の資料展示を行った。さらに、枚方市平和の日の催しに関連した「平和を考える展示」（令和8年2月13日（金）～2月28日（土））の関連図書の資料展示も行った。関連書籍を展示することで、市民の知的好奇心・興味関心を支援することができたことに加え、生涯学習交流センターとの複合施設である市駅前図書館の価値や魅力を高めることにも繋がったと考えている。 ・さらに、大阪府「大阪発スゴ技カー・ボンキュートラル技術パネル展」を、生涯学習交流センターのフロアの一部を使って行った。大阪府のカー・ボンキュートラルに対する取り組みを、大々的に来館者にアピールする機会となった。	3	ボタニカルウォールを活用した展示は市内事業者と連携を図るなど、図書館員以外のおすすめ本の展示も含め、鮮度を保ちながら様々な働きかけを実施しており、本市要求事項を満たし、事業計画どりに運営していると判断できる。
・定期読書会の開催（年6回以上実施）、一箱本棚オーナーの募集（年6回以上実施）、一期一会本棚の設置（常設）、GiftBook本の交換会の開催（年2回以上実施）、ピリオパトルの開催（R8年度以降年1回以上実施）といった「図書館に行きたくなる」「本を読みたくなる」仕掛けづくりを行っているか。	3	・定期読書会開催 令和7年度は以下の6回実施。 4月20日（日）（参加：大人4人）／6月15日（日）（参加：大人4人）／8月17日（日）（参加者無し）／10月19日（日）（参加：大人3人）／12月21日（日）（参加：大人4人）／2月15日（日）（参加：大人6人）。（いずれも定員6人） 「少人数でおはなしが交わって楽しかった」といった好評であった。また、2月27日には、ビジネスパーソンをターゲットに、平日夜間に読書会を開催（定員6人）。こちらは7人の参加があり、定期読書会では日程が合わない利用者に参加いただくことができた。 ・一箱本棚オーナーの募集 令和8年2月から市民参加を募集して本格的に運用開始。以後、2か月ごとに参加者を更新して続けて行く。4月末時点で、8人がオーナーとして参加している。 ・一期一会本棚の設置 「きょうのたいは本」としてフロアに設置。普段は手に取らないかもしれない本との出会いを演出。かなりの頻度で立ち止まってお覧いただいている。 ・GiftBook本の交換会 7月13日（日）（参加：大人4人、定員6人）と12月14日（日）（参加：大人3人、定員6人）の2回実施。本を交換するというハードルのある中、オリジナルブックカバーも好評で参加された方の満足度は高くなっている。読書会もそうだが、「市民同士の交流」は従来図書館の不得手とするところだったとすると、参加者で交流を生むことができるこのイベントは継続してきたい。 ・ピリオパトルの実施 9月6日（日）実施、発表者：3人（定員10人）・観覧者：8人。「ピリオパトル」をご存じなく、興味本位で参加された方がおり、利用者の新たな引出しを開けるきっかけ作りができたのではとの発見があった。ただ、参加者が想定していたより少なく、今後の集客プランを急入りに検討していく必要がある。	3	事業計画書で令和6年11月に実施とされていた一箱本棚オーナーの募集については、令和8年2月に募集を行い運用の開始を確認した。自由に自分の好きな本を選び本棚を作ること図書館に親しみを持つ契機となる利用者参加型の興味深い取り組みである。また、ビジネスパーソンをターゲットとした平日夜間の読書会は立地条件を生かした取り組みであり、本市要求事項を満たし、事業計画どりに運営していると判断できる。
図書館の魅力アップのための備品等の新規設置等について、具体的なアイデアが提案されている。（確認事項2-0）				
・事業計画書で提案されている（荷物入れボックス、読書灯、読書用ハンモック、アウトドアチェアベンチ、ポップアップテント、レジャーシートなど）図書館の魅力及び利便性の向上につながる備品については、利用者のニーズに沿って選定・導入し活用しているか。	3	・令和7年6月から荷物用カゴ、館内でご利用いただくメッシュバッグを「ご自由にご利用ください」の表示とともに設置。「使いやすく便利」というお声をいただいている。今後も提案内容を含め、利用者のニーズを最優先に備品の選定・導入を考えていく。	3	既に導入しているメッシュバッグについては、利用者からも好評であり、本市要求事項を満たし、事業計画どりに運営していると判断できる。今後は、当初の提案備品を含め、図書館の魅力及び利便性の向上につながる備品設置について期待する。
利用者の課題解決を支援するレファレンスサービス等について具体的なアイデアが提案されている。（確認事項2-1）				
・市民のQOL向上の実現に向けた、レファレンスサービスの認知度と利用率の向上、相談者との良好な相互コミュニケーションへの取組、また利用者の自主的な図書館利用につながる仕組みづくりを行っているか。	3	・図書館活用講座や子ども向け図書館活用講座、図書館ツアー実施時等に、レファレンスの仕組みなどの紹介を行い、調べものがあるときはいつでも図書館のカウンターを訪ねてほしいということを案内している。また図書館広報誌にて、お悩みにお応えする企画「教えて！ライブラリアン」をおこない、図書館のレファレンス機能についても周知している。さらに夏休み期間には、子どもの自由研究にあわせてバスファインダーを作成し、希望者に配布している。徐々にレファレンスサービスを活用する市民が増えてきている感触はあるが、今後図書館活用講座などでさらにアピールを続けていく。	3	フロアワークは図書館職員の業務の中でも重要なものである。図書館利用の促進にもつながるもので、図書館職員に声をかけやすい環境づくりに努めていることは、本市要求事項を満たし、事業計画どりに運営していると判断できる。引き続き、レファレンスサービスの充実やPRに努められたい。
・レファレンス事例集の蓄積と公開、担当スタッフによる勉強会の実施のほか、暮らしの課題解決支援イベント（R7年度3回、R8年度以降年2回以上実施）や情報検索・リテラシー講座（R8年度実施、以降年1回以上実施）といったレファレンスサービス向上につながる取り組みを行っているか。	3	・昨年度作成したレファレンスファイルは上半期20件、下半期10件で合計30件。いつでもスタッフ全員が見られるようにしており、事例を常に共有している。 ・暮らしの課題解決としては、上半期に5月25日（日）に「エンディングノートの書き方講座」（参加：大人27人、定員：40人）、9月21日（日）「快眠セミナー」（参加：大人33人、定員40人）を実施したほか、下半期には2月23日（月祝）に「片付け入門セミナー」（参加：大人43人、定員50人）を実施し、市民の暮らしの課題解決に役立つ講座として、多くの利用者に参加いただくことができた。特に「片付け入門セミナー」については、定員50人のところ倍近い96人の応募があるほど人気があったことから、令和8年6月7日に同じ内容で実施予定。 ・情報検索・リテラシー講座については、令和8年4月3日（金）に「親子で楽しく学ぶ！インターネット安全教室」を実施済（参加：大人8人子ども8人、定員大人15人、子ども15人）。	3	スタッフへの研修、レファレンス事例の蓄積が行われていることを確認し、本市要求事項を満たし事業計画どりに運営していると判断できる。今後もより実践的な活用を見据えて継続されたい。また、スタッフ間の知識・情報の共有化についても、より留意して活動されることを期待する。
・レファレンスサービス推進のための自治体や各団体とのコミュニティパートナーシップの構築や、スタッフの関係団体に関する知識とレファレンスインタビューのスキル向上、ガイドラインの整備、情報提供の充実、ニーズ分析・サービス評価を行い、サービスの充実につなげているか。	3	・センターでの「くずし字講座」実施のため鍵屋資料館学芸員と打ち合わせを実施。また12月16日（水）にはローカルメディア「枚方つーしん」の会合に参加し、協力関係構築に取組んでいる。 ・また図書館で事業実施実績のある淀川河川事務所や、商工会議所など関係団体と関係構築に努める。 ・大阪府立図書館や国立国会図書館など、自館では解決が難しいレファレンスを受けた際の照会先リストを作成中（令和8年度4月に完成）。またそのリストに枚方市内の公的機関の名称・連絡先も掲載し、行政手続きや生活支援について問合せがあればお答えできるよう準備している。 ・さまざまなレファレンスに対応できるよう、スタッフ向けのガイドラインを策定中。令和8年度内に運用を開始する。また、弊社のレファレンスに関するオンライン研修をスタッフに受講させ、スキルアップに取組んだ。	3	レファレンスサービスの推進や関係団体との関係構築などに努めていることを確認し、本市要求事項を満たし事業計画どりに運営していると判断できる。今後も、より効果的な取り組みとして結実されることを期待する。サービスの基盤を整備する観点から、実際の取り組みのレポート、ガイドラインの整備、ニーズの分析も実施されたい。

(Ⅰ) 事業提案（生涯学習交流センター）				
生涯学習交流センターの認知度の向上・利用者数の増加につながるような魅力的な自主事業が具体的に提案されている（確認事項22）				
・鑑賞事業の実施（令和7年度以降年6回以上実施）。	4	鑑賞事業として、大集会室を使った自主事業を6回実施。大集会室を使った「音楽コンサート」5回、「バリアフリー映画の上映鑑賞会」1回をそれぞれ実施。幅広い利用者層に大集会室のグランドピアノでの演奏等を通して、音楽や芸術に親しむ機会をもていただくことで、「音楽のまち・枚方」の魅力を堪能していただくことができ、未来の利用者たる子どもたちのこれからの分野への興味・関心を育て、イベントをきっかけに家族連れを施設へ呼び込むことで街のにぎわい創出にも大きく貢献することができた。 特に令和8年1月開催の「親子クラシック」では、枚方市アーティストバンク所属の「ヒラチーお」の二人による、ヴァイオリンとピアノのクラシックコンサートは、「子どもが泣いてもおもしろい様」が気兼ねせずに参加して欲しい家族向けコンサート」という企画意図が広く受け入れられ、応募数が200人を超えるなど、大変な反響があった。内容も本格的なクラシック曲から、ジブリ・ディズニーなどの耳なじみのある楽曲まで幅広く楽しんでもらった。 個別のイベントは次の通り。 「気軽にジャズピアノ」令和7年4月12日(土)実施（参加者64人 定員70人） 「親子クラシック 子ども声も音色のひとつ」令和8年1月18日(日)実施（参加者 67人・定員50人） 「ピアノ・ボーカル・デュオ・コンサート」令和8年2月7日(土)実施（参加者51人 定員50人） 「バリアフリー映画会」令和8年2月15日(日)実施（参加者 42人 定員50人） 「楽器を楽しむファミリーコンサート」令和8年2月22日(日)実施（参加者 55人 定員50人） 「枚方フィルハーモニー管弦楽団コンサート」令和8年3月28日(土)実施（参加者58人 定員60人） 令和7年4月実施の「気軽にジャズピアノ」は、ポピュラーミュージックからジャズまで、ジャンルを問わず幅広い年代が楽しめるコンサートを実施。これまでの音楽系コンサートの中では、若年層が多く参加し、「新規利用者の開拓」という目的を達することができた。 令和8年2月開催の「ピアノ・ボーカル・デュオ・コンサート」は、昨年度も好評だったピアノとボーカルの女性2人組ユニットによるコンサート。初めて参加した方も、前回から引き続き参加された方も、そのバワフルで情感豊かな演奏と歌声にも酔いしれ聞きほれているのが伝わってくる。アーティストと参加者がともに一体感のある、満足度の高いコンサートとなった。 令和8年2月開催の「バリアフリー映画会」は、障害のある方もない方も、どちらと一緒に楽しめるバリアフリー映画の存在を知ってもらい、バリアフリー映画の機能面（日本語字幕・音声ガイド等）への理解の促進、障害者の社会参加のきっかけとしてもらうことを目的に実施。 今回は障害のある当事者の参加はなかったものの、上映前にスタッフが「バリアフリー映画」についての説明を行い、この企画の意図を参加者と共有した。参加後に回収したアンケートからもこの説明があったことで、バリアフリー映画の意義が良く伝わったというコメントがあり、映画そのものを楽しむだけでなく、学びの機会を提供できたと思われる。 令和8年2月開催の「楽器を楽しむファミリーコンサート」は、枚方アーティストバンク所属の3人組打楽器ユニット・エトワールをお迎えし、小さな子どもとご家族がみんなで楽しめるファミリー向けのコンサートを開催。 1月に行った「親子クラシック」よりも親しみやすい雰囲気の中、前半は迫力満点＆メロディアスな魅力あふれる打楽器による音楽コンサートを鑑賞し、後半は参加者を複数グループに分けて行なう「打楽器に触れるワークショップ」を実施。普段なかなか目にする機会が少ない「マリンバ」「カホン」等の珍しい楽器の数々に、参加した子どもだけでなく、家族みんなが本物の音楽に触れる機会・体験を心の底から楽しんでた。 令和8年3月開催の「枚方フィルハーモニー管弦楽団コンサート」では、枚方フィルのメンバー内ユニットである「弦楽四重奏」「木管五重奏」「クラリネット四重奏」等の演奏を楽しむコンサートを開催。幅広いジャンルの多彩な演奏の数々に、参加者は皆口々に「楽しかった」「最高！」と喜んで帰って行かれた。 センターコンサートの魅力の一つである「演奏者と客席の近さ」に、「生音の迫力・ライブ体験」がある。受動的に音楽を「聴く」だけでなく、近い距離からこぞ味わえる「演奏者の表情」「指使いや呼吸の様子」等をしかりと感じ取ることができ、参加者は皆交流センターならではの「体験」から得る学びを持帰ることが出来ていたように感じた。	4	計画通りの事業本数を実施していることから、本市要求事項を満たしていると判断できる。さらに、各回多くの参加者があり、応募数が定員を大幅に上回ったものもあるなど、生涯学習交流センターの利用者数増加/認知度向上につながったことを評価する。
・初心者向け講座・ワークショップの実施（令和7年度以降年6回以上実施）。	4	初心者向け講座・ワークショップとして今年度は計9回を実施。 対象となる年齢層をあえて固定せず幅広いターゲットを対象に実施することで、より多くの方にセンターならびに生涯教育への興味・関心を掻き立てることができた。令和7年9月実施のセンターまつりでの「星ヶ丘洋裁学校」の手作り小物のワークショップをきっかけに、同年10月の「バッチワーク」のイベントにも続けて参加された方がいるなど、1つのイベントをきっかけに、また別のイベントへの参加も促すことで、切れ目のない連続した事業への参加、センター利用を喚起し、「単発のイベント参加」で終わらない、「継続的なセンター利用」、「生涯教育への興味・関心」を生み出す流れを作ることができた。 個別のイベントについては以下の通り。 「珈琲好きなら、集まれ」令和7年4月25日(金)実施（参加者 43人 定員50人） 「ロードバイクを知ろう！」令和7年6月25日(水)実施（参加者 9人 定員50人） 「夏休み子どもワークショップ 自分で本を作ってみよう！」令和7年7月26日(土)実施（参加者 11組、全2回 定員20組） 「盆栽×ジオマで作る！ 手のひら「盆」マ」ワークショップ」令和7年7月27日(日)実施（参加者 28人、全2回 定員 40人） 「子どもいけばなワークショップ」令和7年8月22日(金)実施（参加者 16人、全2回 定員 20人） 「バッチワークでブックカバーづくり」令和7年10月6日(月)実施（参加者10人 定員10人） 「カリグラフィ講座 モダンカリグラフィでXmasを書こう」令和7年11月29日(土)実施（参加者9人 定員10人） 「初心に戻るハード&メタル・ロック」令和7年11月29日(土)実施(参加者15人 定員18人) 「盆栽×ジオマで作る！ 手のひら「盆」マ」ワークショップ」令和8年2月23日(月)実施(参加者22人、全2回 定員30人) 平日・夜間のイベントは主に大人（仕事帰りのビジネスパーソン）にむけて、新たな趣味や興味の発見につながる講座を、7月・8月の夏休み期間は、主に子ども向けに「初めてセンターを利用する」のにふさわしいイベントを実施した。有料イベントは特に「充分にそれだけの価値があるもの」、「子ども向けであっても、大人の興味・鑑賞にも耐えるもの」、「親子で参加してもどちらも楽しいもの」を心掛け、企画を設定。どのイベントも「子どもはもちろん、親も夢中になった」「この金額でこんなレベルの高いものが作れるなんて（体験できるなんて） 満足できた」等、どちらのイベントも好評の声をいただいている。 令和7年10月に実施した「バッチワークでブックカバーづくり」は、先月9月に行った周年イベントでの星ヶ丘洋裁学校の「手芸ワークショップ」の参加者が続けて参加され、「リリティブプリント」の生地をこんなふうにつかえるなんてうれしいと参加者から喜ばれていた。 令和7年11月実施の「カリグラフィ講座」は、普段センター利用の少ない30～40代の利用者をターゲットにしたもの。狙い通りのターゲット層が集まり、一定の効果を得た。同じく「ハード&メタルロック」はこれまでの音楽講座と違う路線で実施。メタルやロックといった音楽は、「クラシックに通じる様式美がある」という説明には、実際の楽曲を聞いた参加者からは驚きつつも納得の声も上がっていた。 令和8年2月実施の「盆栽×ジオマで作る！ 手のひら「盆」マ」ワークショップ」は、大人でも難しいような細かな作業もあるなか、小さな子	4	計画以上の回数を実施しており、また、内容についても、幅広い層を対象としたバリエーション豊かな企画となっている。参加人数は振るわなかったが、従来の生涯学習市民センターではなかったようは「ロードバイクを知ろう！」といった、室内でアウトドアを疑似体験できるものなど工夫が見られた。以上より、計画以上の評価ができるものと判断する。改善点があれば反映いただき、引き続き広い層に働きかける事業展開に期待する。
・親子向け講座の実施（令和7年度以降年4回以上実施）。	3	親子向け事業として、今年度は計5回実施。 「子育てびバ交流会」令和7年4月27日(日)実施（参加者 6人 定員6人） 「笑顔が増える！ 親と子のラクラクお片付け術」令和7年7月11日(金)実施（参加者6人、うち保育利用 1人 定員15人） 「子育てびバ交流会」令和7年7月20日(日)実施（参加者5人 定員10人） 「親子でしめ飾りづくり」令和8年12月6日(土)実施（参加者12人、親子6組 定員8組） 「子育てびバ交流会」令和8年12月14日(日)実施（参加者8人 定員10人） 今年度3回行った「子育てびバ交流会」は、孤立しがちな育休中・子育ての悩みを持つ30代前後の男性をターゲットに「交流」をメインテーマに実施。お子さん連れでの参加を推奨しているため、普段の子どもとのかかわり方や悩みなどが自然と出てきやすく、参加者からのニーズも高い。毎回参加者が揃っており、広ニーズのある企画のよう人気・関心度共に相変わらず高い様子が見えがえる。今後も継続して実施し、潜在ニーズの掘り起こしや同じ課題や経験を持つものを繋げる「コミュニティづくり」につなげていきたい。 平日午前中に実施した「お片付け講座」は、施設初の「保育付き」イベントとして実施。子連れで参加するのを躊躇していたが、「保育ありと聞いたので申し込めた」と参加者（保育利用者）から、喜びの声をいただいた。 「親子でしめ飾りづくり」は、それぞれの親子のやり取りや制作物に個性が出、思い思いの「世界に一つだけ」の作品作りを楽しんでいる様子だった。	3	親子向け講座を計画通り実施していることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。別フロアにまるとこどもセンターが併設されているという立地を生かし、誘導について意識した取組みを検討いただきた。
・大型イベントと連動したSNS・動画配信サービス活用事業の実施（令和7年度以降年2回以上実施）。	3	大型イベントと連動したSNS・動画配信サービス活用事業として、今年度はイベント2回とYoutubeへ動画3本のアップを実施した。 9月に行った周年祭の様子を映した写真展「写真展 によきの記録」と、センターの日常の風景を切り取った写真展「KININARU 1年の記録」の2つを開催。その他にも令和8年3月には、施設のYoutubeチャンネルにて、問い合わせの多い「時間帯別」のアクセス動画をルートごとに3本作成し掲載した。 そのほか施設のInstagramアカウントでは、大型イベントの案内告知やイベントの実施報告以外にも、ストーリー機能を活用し双方向でのコミュニケーションができるように「教えてライブアリアン」コーナーを設置。図書館とも連携して、若い世代へSNSを通じての施設の認知度アップを目指している。	3	大型イベントと連動したSNS・動画配信サービス活用事業を計画通り推進しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
屋上広場や屋上スペースの活用、オープニング事業やセンターまつりなどの自主事業において、生涯学習交流センターの活性化・賑わいづくりにつながるような提案が具体的にされている（確認事項23）				
・屋上広場活用事業の実施（令和7年度以降年1回以上実施）。	3	屋上広場活用事業は今年度は1回実施。 枚方市及びビル管理会社の京阪カインドと使用について協議を、令和7年11月に施設として初めての屋上広場を使った事業を実施。 11月実施の「ショート動画作成講座」の動画作成パートの実習を、屋上広場を会場として実施した。 参加者がそれぞれの個性を生かしながら、講師の助言を受けつつのひとひと作品を作る姿は、屋内に限られた空間ではできない屋外ならではの開放感が活かされたものと思われる。 来年度は、カメラの撮影技術を学ぶワークショップの実技・実習パートで屋上広場を会場に使用する予定。	3	屋上広場活用事業の実施を予定しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。

・屋上スペース活用事業の実施（令和７年度以降年１回以上実施）。	4	屋上スペース活用事業として、今年度は6回実施した。天候や季節に左右される場所ではあるが、広く施設利用者の目に留まることのできる場所であり、このスペースをイベント会場として活用することで、より多くの施設利用者の目に留まる効果がある。これらにより、その時々個別のイベント参加者だけでなくとどまらない、より広い層への「学び」「知的好奇心」のアプローチを達成することができた。 「お外で水遊び」令和7年5月4日(日)実施（参加者 大人33人・子ども36人、全6回 定員30人） 「1.2.3歳さん、いらっしゃい！」令和7年11月9日(日)実施（参加者16人、親子8組 定員 随時親子6組程度・順次入替予定） 「屋上で野点を楽しもう」令和8年3月1日(日)実施①子どもお点前体験（参加者20人、全4回 定員20人）②お茶体験（参加者39人、全5回 定員50人） 「おはなしヨガ」令和8年3月26日(木)実施①大人の部（参加者2人 定員4人）②親子の部（参加者6人、親子3組 定員 親子4組） 令和7年5月実施の「お外で水遊び」は、知育玩具メーカー「ポーネルド」の水遊びキット「アクアプレイ」を使って、30分ごとの入替制で自由に水遊び（外遊び）を楽しんでいた。交流センターの「屋上スペース」という、解放的でありながら、きちんと区切られたスペースで安全に配慮しながら水遊びができる機会に、「自分たちではなかなかできない経験」と参加した保護者からは大変感謝された。また参加した子どもたちも年齢層に幅はありながらも、自然とそれぞれが譲り合い、みなで協力し合っ「遊びを生み出す」姿に、「知育（遊びを通して学びを育む）」をテーマにした玩具をつかうことで幅広い学びの機会を提供できた。 令和7年11月実施の「1.2.3歳さん、いらっしゃい！」令和7年11月9日(日)実施（参加者16人、親子8組 定員 随時親子6組程度・順次入替予定） 当日は残念ながら、雨天のため屋外実施ではできなかったものの、急遽屋内の交流ロビーで狭いスペースでも実施可能な「おりがみ釣り」のみを実施し、来館した方に喜んでいただいた。 令和8年3月実施「屋上で野点を楽しもう」は、裏千家教授である岡市宗成さんに教えて頂き、日本の伝統分がでありながら、普段触れる機会が少ない茶道の体験会を幅広い世代が参加できるように実施。 ①の「子どもお点前体験」では一人一人が実際に茶道の「お点前」を体験し、講師の点てたお茶と飲み比べをするなど、豊かな体験を味わえたことで、「抹茶好きの子どもに、普段できない体験をさせることができ良かった」と、付き添いのご家族からも好評を得た。②の「お茶体験」では、動画と解説による「茶道」のお点前や解説を「ミニ講義」として学んだ後、屋上でお茶と和菓子をいただくというもので、深い知識を得た後にもっと違う景色で味わうお茶や和菓子はとても味わい深く感じられるようだった、「こうした体験を手軽・気軽にできたのは素晴らしい」「またやって欲しい」と好評を得た。 令和8年3月実施の「おはなしヨガは、大阪市内で子育て支援施設を主催する講師、池田有美さんをお招きし、ムリなく体を動かす「ヨガ」と、物語の時間を楽しむことで心に栄養を取り込む「おはなし」の時間を楽しむ屋外イベントとして実施。 大人の部は申込、参加者こそ多くなかったものの、参加された方はアットホームな雰囲気の中、講師とのやり取りや参加者同士のコミュニケーションを心から楽しんでいる様子だった。 親子の部では、親子で体を動かすアクティビティと、「絵本」というなじみ深いコンテンツを全員が一体となって楽しんでいるのが印象的だった。 屋上スペースという、施設の中のリソースを有効活用することで、今後も施設に対する認知度の増加や積極的なイベント・サークルへの参加、ひいては隣接する図書館へといった施設自体の付加価値を高め、「体験から学び」へのスムーズかつ自然な移行を目指し、各種企画を立案実施していく。	4	屋上スペース活用事業について、計画以上の回数実施し、参加率も５割以上から満員に至るものもあるなど、積極的に魅力ある取り組みを実施していることから、計画以上の良好な管理運営を行っている」と評価できる。
・センターまつりについて、センターの賑わいづくりや新たな利用者の増加につながるようなプログラムの実施（令和７年度１回、令和８年度以降年１回実施）。	4	令和7年9月27日(土)と28日(日)の2日間、「(k)not hirakata2025 によき」を開催。昨年9月の開館以降に、この場所で生まれた「新しいつながり」や「学びの芽」を今年度のテーマ「によき」として表現。1日目はセンターで活動する団体やサークルの活動発表の場として、2日目はもっと枚方を知り、枚方が好きになるイベントを、というコンセプトのもとで全部で13個のイベントと、市内の特徴ある飲食店4店舗による飲食物の販売、図書館の主催するイベント2種（おはなし会、クイズラリー）を行った。これらのことから、施設の「ブランド価値向上」「市駅前地区のにぎわい創出」「新たな施設利用者の開拓（これまで施設に来たことのない利用者へのアプローチ）」という効果を十分に生むことができたと考え、その効果（結果）として、2日間の来館者数は合計で約4,000人。1日当たり2,000人程度の来場があり、このうちアンケートでも「今回初めて施設を利用した」と回答する方がおられるなど、多様多様な企画を実施したことで、今回も新たな利用者の増加につながることができた。 個別のイベントについては以下の通り。 昨年度も好評だった「ふれあい移動水族館」は、2日間で大人・子ども合わせて375人が参加（定員は2日間で約600人）。昨年度よりも会場スペースを広げ、滞在時間も長く設定したことで、「生きた学びの体験」を存分に味わってもらうことができ、大変参加者の満足度は高かった。また、今回初めて会場外に「デモ用の水槽」（熱帯魚が数種類と、水槽の背面にデジタルサイネージで『イメージ動画』が再生されるもの）を受付ブースの隣に設置したことで、館内の来場者の誘引をするともに、イベント会場内での展示内容の多彩さ・レベルの高さを会場に入らなくても一目見てわかってもらうことができ、こちらも好評であった。 初日のメインイベントに当たる「サークル活動発表会」は、フラダンスやマジック、合唱が楽器演奏まで幅広い7つの団体が参加。終了後には「他のサークルの活動内容が知れやすかった」、「あの団体に興味があるので、次の活動日に見学してみようと思う」といった感想を頂戴するなど、参加者、観覧者ともに「新たな趣味・興味」を発見する場、学びをさらに広げる場としても作用していたようである。観覧者は合計157人（のべ人数）（定員70人）。 その他にも「ステージ発表」以外のサークル活動にも光を当てるため、「ソーパカービング」（参加8人 定員12人）と「スマホ・カメラを使った写真講座」（参加7人 定員15人）を、それぞれセンターの活動団体に依頼して、ワークショップ・講義の形で開催。どちらも参加者から「こんなことができるんだ」と新しい発見とともに、その活動内容のレベルの高さに驚き、喜んでいただけたようである。 2日目は、枚方市出身のプロレスラー「グルクンマスク氏」による、「自重トレーニング」と「スペシャルおはなし会」を開催。普段から人前でお話される機会が多いグルクンマスク氏のアツい指導と熱演は、その場にいる人すべてを巻き込み素晴らしい一体感が生まれていた。その他、普段聞近に見れないアーティストと近距離で接することができた大変好評だった「コトリンゴトークショー」、夜の時間帯に開催し、大人向けのしつとりとした和洋の音楽の融合「イブニングコンサート」はどちらも大集会室のグランドピアノをフル活用する形で行った。グランドピアノはその音色とともに、枚方の各所を意匠した切り絵ラッピングもとても評判が良かった。また、昨年度に引き続き行った星ヶ丘洋裁学校の小物づくりワークショップも、昨年度より内容をバージョンアップして実施。参加者からも「講師の先生の手厚いフォローのおかげで、かわいい物が出来た」とコメントをもらうなど、今後も、枚方市内の魅力を発信・再発信するとともに、「ターミナル駅直結」という立地を生かし、他都市からの流入（を呼びこむ）ことで、さらな	4	センターの賑わいづくりや新たな増加につながるセンターまつりを開催していることから、本市要求事項を満たし、事業計画以上の充実した内容で運営していると判断できる。 利用団体の参加や成果発表になる機会も、利用者のモチベーションの向上につながるものである。また、外部出演者によるイベントや人気の移動水族館、他のイベントにも関わっているショップの飲食物の物販など、多彩な内容でプログラムが組まれ、新たな来館者の呼び込みにもつながったことは、計画以上の取り組みであったと評価できる。今後も、多くの人が楽しめるよう工夫を凝らしていただきたい。
ビジネスパーソンの獲得など、生涯学習交流センターの夜間の利用者数増加に向けた事業等が具体的に提案されている（確認事項24）				
・平日夜間の時間帯を中心とした、市民がビジネスで必要なスキルや知識等を学ぶためのビジネスパーソン向け講座の実施（令和7年度以降は年4回以上の実施）	3	ビジネスパーソン向けの講座は今年度4回開催。 「利き酒セミナー 北陸のお酒を楽しむ夜」令和7年8月30日(土)実施（参加者 15人 定員15人） 「利き酒セミナー 交野のお酒を楽しむ夜」令和7年9月26日(金)実施（参加者 28人 定員45人） 「利き酒セミナー 日本酒がもっと楽しめるベアリングセミナー」令和8年1月11日(月・祝)実施（参加者20人 定員20人） 「北陸のお酒」では今も地震で被災し苦しみながら立ち上がりつつある北陸の酒蔵の苦境と力強さを、「交野のお酒」では江戸時代から続く伝統的な造り酒屋ならではの「酒造り」についてのより詳しい解説・説明を交えて、日本のモノづくりと食文化の奥深さを、それぞれの講師が選り抜いたおすすめの日本酒とそれらに合うおつまみを楽しみながら味わっていただいた。 1月に開催した「日本酒がもっと楽しめるベアリングセミナー」は女性の日本酒ソムリエ（SAKE DIPLOMA）を講師として招き、「お家にあるもので、さらに日本酒が美味しくなる」という視点から、様々な日本酒と美味しいおつまみを紹介していただいた。内容も女性が参加しやすいものとした成果が、女性からの申し込み込みが半数近くあるなど反響も大きかった。「講師の日本酒愛に触れられて楽しかった」「自身の知識もより深まった」等、好評の声も多く、「次もまたぜひ参加したい、いつやるのか」と継続しての開催を望む声も多く、両回とも参加者からも一様に「満足」とのコメントをいただいた。 「共感を呼ぶ！ 広報動画の作り方入門」令和8年2月21日(土)実施（参加者11人 定員12人） 自社の魅力や思いをPR動画で伝えるために、はじめて広報動画を作成する人に向けて、プロのカメラマンでもある講師がインタビュー撮影・編集のコツや基本をお伝えする企画。テクニク的な部分の指導もあったが、参加者からは「より実践的で、何をすべきかが良く分かった」「今回の入門編に続き、中級編などがあればまた受講したい」とより意欲的な感想やコメントが多く聞かれ、充実した学びの機会となっていた。この他、中央図書館所蔵の「かんばうデータベース」を、より幅広く使いやすめための講座を実施した。その他、R8年度以降には、施設の入るビル6階の「男女共生フロア・ウィル」との共催によるイベントを実施予定としている。	3	計画通りの事業本数を実施しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。対象地域を変え、様々な地域の酒にまつわる話と利き酒が楽しめる講座は、普段来館しない人の来館契機となつている。今後とも同様の取り組みを続けていただくともに、40代・50代の人々がターゲットになる企画も併せて検討いただきたい。

立地条件等を踏まえた新しい事業が積極的に提案されている（確認事項25）				
・市民と共に「まちを育て価値を高める」取り組みの実施（年1回以上）。	4	地域に価値を生むイベントや取り組みについて、様々な角度・内容のものを今年度は3回実施した。市民とともにまちを育て、人を育て、そこで頑張る人たちの取り組みを紹介し、「つなげる」取り組みを通じて、この枚方という街をさらに「価値ある場所」へと高めるべく、今後もセンターが1つの存在（中心的な中核地）として、様々な取り組みを行っていくことで、「市民と共にまちを育て価値を高める」取り組みという目標を達することができたと考える。 個別のイベントについては以下の通り。 「安齋肇トークショー『わたしの人生にまつわる7』」令和7年9月6日(土)実施(参加者 43人 定員60人) 「アレルギーを学ぼう！ やさいい米粉のお菓子ができまるで」令和7年10月25日(土)実施（参加者19人 定員60人） 「出張プラネタリウム」令和7年12月7日(日)実施（参加者82人、全4回 定員120人） 「安齋肇トークショー」では、イラストレーターやアートディレクター等、多方面で活躍される安齋肇氏をお招きし、様々な角度からトークを展開。 どの方面からとどんな広げ知識やお話の展開に90分間があつという間で、参加者は一様にその軽妙で含蓄の深いトークに引き込まれていた様子だった。 「こんなすごい人が枚方に！」「あんなすごい人を間近に見られるなんて」と、こうしたイベントを入口(きっかけ)に、施設を初めて利用する新しい利用者や「関係人口」を呼び込むきっかけを作っていくと同時に、会場のキャパそのものが決して大きくないからこそ成立する「距離感の近さ」も交流センターでイベントをする魅力の一つのようで、その点を評価いただくコメントは、参加者からの高評価だけでなく、出演者からも「一人一人の参加者の顔が見えてやりやすかった」「ぜひまたやりたい」と言っていた。 10月に実施した「アレルギーを学ぼう！ やさいい米粉のお菓子ができまるで」では、比較的小児アレルギーの発生原因になりにくい「米粉」で作るスイーツにこだわって、健康と美味しさを追及する市内の菓子店(3店舗)を紹介する企画で、各店舗の店主の製造工程のこだわりや取り組みなども学びながら、実際の商品も試食でき、枚方の街により愛着と誇りが持てる相互理解を育てることができる企画となった。 「出張プラネタリウム」では「天の川伝説」もある星のまち・枚方市で、冬期に実際に楽しみながら星空について学べる企画で「移動式プラネタリウム」で楽しみながら学んで頂いた。 参加された方からは、「普段見ている星空がより楽しめる内容だった」「何気なく見ている星の名前がわかって感動した」と口々に、このほか、枚方市の事業の一環として「コシノジュンコ氏による自作の絵画（寄贈）の展示」及び「関連図書60冊の展示」（令和7年11月7日(金)～12月28日(日)）と、大阪・関西万博のポルトガルパビリオンに使用されていた「ロブ」と、パキスタンパビリオンで展示されていた「岩場」をそれぞれセンターの展示スペースにて展示を行った（令和7年11月18日(月)～12月21日(日)まで）。 これらは、大阪・関西万博のレガシーが取り上げられているタイムリーな時期の展示ということもあって、市内外からの問い合わせも多く、来場者が思わず立ち止まり、見入ってしまうような展示であった。施設にやってくる方々にとって、さらなる知的好奇心・興味関心を掻き立てる空間にすることで、地域や施設の「価値」「ブランド」「魅力」を高める一助になったと思われる。 それぞれの内容としては、コシノジュンコ氏の寄贈絵画は、迫力ある赤と黒の筆遣いに圧倒的なパワーを感じるようで、多く来場者が展示された関連書籍と共に興味深く見入っていた。万博パビリオンの展示物は、物品を展示するだけでなく「パビリオンや国や地域も含めた説明の動画」を、普段は施設のイベント案内などに利用している施設所有の縦型サイネージをこの期間のみ特別に提供し、説明・解説の動画のループ再生を行なったことで、より臨場感・没入感あふれる空間を施設の来館者に提供にすることが出来た。 他にも、枚方市の人権政策課より依頼があり、6階の「男女共生フロア ウィル」の展示企画として毎年3月1日にニッパパーク岡東中央で行	4	各イベントを提案以上の回数を実施したことに加え、当初の予定にはない展示・図書の紹介などを実施するなど、施設にやってくる方々にとって、さらなる知的好奇心・興味関心を掻き立てる空間にすることで、地域や施設の「価値」「ブランド」「魅力」を高める一助になった点について、計画以上の良好な管理運営を行っていると評価できる。
オ) 事業提案（図書館）				
枚方市子ども読書活動推進計画の趣旨に沿った子ども向けの事業が提案されている。（確認事項26）				
・乳幼児とその保護者を対象としたサービスとして、「プレマ・プレババ向け交流会」（令和7年度実施、令和8年度以降年2回以上実施）、「親子読書会」（月1回実施）、「リトミック・絵本の読み聞かせ会」（令和7年度2回実施・令和8年度以降年2回以上実施）、「赤ちゃん向けおはなし会」（週1～2回実施）の「小さい子向けおはなし会」、4歳～5歳向けの「大きい子向けおはなし会」（月2回以上実施）、「いきなりおはなし会」（随時実施）、「乳幼児向け特別おはなし会」（令和7年度以降年4回以上実施）、「幼児向けおとしやん宝さがしゲーム」（令和7年度実施、令和8年度以降年1回以上実施）、「あいくるみのおとまり会」（令和7年度以降年2回以上実施）を行っているか。	3	・「プレマ・プレババ向け交流会」 「新米ママババ交流会」として5月18日(日)（参加：大人4人、子ども2人の2組、定員：親子5組）に実施。図書館から絵本の紹介や、保育環境コーディネーターによるコミュニケーションや育児で困ったとき解決法などのおはなしのほか参加者同士の交流も促す会となった。 ・「親子読書会」 毎月実施しており、令和7年度は計12回で204人（参加：大人101人、子ども103人）が参加。毎回違うテーマを設定し、リーダーも楽しめる内容を心がけ、徐々に参加者を増やすことができた。 ・「リトミックと絵本の読み聞かせ」 上半期は5月29日(木)（参加：大人6人、子ども6人の6組、定員：10組）、下半期は10月22日(木)（参加：①大人4人、子ども4人の4組、②大人6人、子ども6人の6組、定員各6組）に実施。10月22日については、対象年齢を6か月～1歳と1歳～3歳の2回に分けて実施した。対象年齢を限定することで、子どもの発達段階に合ったより効果的な内容になった。リトミックは定員に対して4倍以上の応募があり、需要の高い事業であることから、今後も引き続き取り組んでいく。 ・「赤ちゃん向けおはなし会」 毎週金曜日計51回実施（参加：延べ744人）。また、生涯学習交流センターとの連携で、月1回「おたんじょうびを祝いしよう」を実施し、参加者に非常に喜ばれているイベントとなっている。 ・「小さい子向けおはなし会」 毎月1回計12回実施（参加：延べ191人）。また6月は総合文化芸術センターイベント「H-Artsフェスタ」の出張おはなし会として実施し、普段来館されない市民にも参加いただくことができた。 ・「大きい子向けおはなし会」 毎月1回計12回実施（参加：延べ116人）。また、6月はひらかた文学の会主催イベント「ひらかたブックザール」にて実施し、普段来館されない市民にも参加いただくことができた。 ・「いきなりおはなし会」 おはなしのエリアの利用状況に合わせて8月17日(日)実施（参加：6人）。これまでおはなし会に参加していない利用者に参加いただき、定期実施のおはなし会への参加を促すことができた。 ・「乳幼児向け特別おはなし会」 「季節のおはなし会」として実施。 4月27日(日)「さくらうはるのおはなし会」実施（参加：大人5人、子ども8人）。 7月27日(日)「こわいおはなし会」同日2回実施（参加：大人11人、子ども12人、定員各回15人）。 10月26日(日)「あきのゆうつれおはなし会」実施（参加：大人5人、子ども5人）。 12月7日(日)「クリスマスおはなし会」実施（参加：大人12人、子ども11人）。 通常のおはなし会に加え、参加者に楽しんで絵本に触れていただけるよう工作的な要素などを盛り込むことで、普段とは違うおはなし会を演出。子どもたちに図書館の楽しさを感じてもらえる機会となった。 ・「幼児向けおとしやん宝さがしゲーム」 6月21日(土)実施（子ども：51人、定員50人）。図書館内を回っていただく仕掛けにしたため、保護者も含めて図書館内を隅までご覧いただける機会となった。 ・「あいくるみのおとまり会」 8月24日(日)と3月22日(日)に実施。（参加：8月24日・大人5人、子ども9人、3月22日・大人13人、子ども10人、定員各回5人）。昨年度の実績を	3	各種おはなし会、イベントを積極的に開催しており、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに実施していると判断できる。
・児童・生徒を対象としたサービスとして、「巡回パネル展」（令和8年度実施、令和9年度以降年1回以上実施）、「小学生向け図書館ツアー」（令和7年度以降年4回以上実施）、「1日図書館員」（令和7年度以降年4回以上実施）、「小学生向けクイズラリーで図書館探検」（令和7年度実施、令和8年度以降年1回以上実施）、「子どものための図書館活用術講座」（令和7年度実施、令和8年度以降年1回以上実施）、「・夏休み・自由研究サポートコーナー設置」（令和7年度実施、令和8年度以降毎年実施）、「図書館シールラリーチャレンジ」（令和7年度実施、令和8年度以降年2回以上実施）、「たぐん読んでがチャマシンをまわそう！」（令和7年度2回実施、令和8年度以降年2回以上実施）、「図書館長になってみよう」（令和7年度実施、令和8年度以降年1回以上実施）、「プログラミング講座（大阪工業大学連携）」（令和7年度以降年2回以上実施）「小学生向けSDGsまちあるき探検」（令和7年度実施、令和8年度以降年1回以上実施）、「SDGsの本棚」の設置、「中高生サポーターを募集・活動」（令和7年度実施、令和8年度以降年1回以上実施）、「中高生向けコーナーの設置」、「中高生ビブリオバトル」（令和8年度実施、令和9年度実施）を行っているか。	3	・「親子でキットバス！ 絵本の世界を描こう！」 4月13日(日)実施（全2回、参加：大人31人、子ども35人、定員：各回15組30人）。キットバスという画材を使用し、スギヤマカノ「みーせーで」の絵本に倣い絵本の世界を描くワークショップ。講師は他のセンターでも講師経験のある市民。「キットバス」の魅力にはまりそうというお声もあったように、市民に新しい体験を提供することができた。 ・「ふじものりこ原画展」 5月10日(土)から、香里ヶ丘図書館、市内書店との巡回展を実施。絵本原画15点を交流センターギャラリースペースにて展示。児童だけでなく大人にも足を止めてご覧いただくことができた。 ・「小学生向け図書館ツアー」 5月11日(日)、（参加：大人1人、子ども2人）、8月3日(日)（参加：大人5人、子ども3人）、10月5日(日)（参加：大人4人、子ども4人）、3月28日(土)（参加：大人4人、子ども6人）の4回実施（定員：各回6組）。下半期は図書館に関するクイズを導入した「図書館謎解きツアー」とし、楽しみながら図書館を知っていただくイベントとした。 ・「1日図書館員」 7月21日(月)（参加：子ども4人）、9月15日(月)（参加：子ども6人）、11月9日(日)（参加：子ども5人）1月25日(日)（参加：子ども5人）の4回実施（定員：各回6人）。普段知らない図書館業務を体験していただくことで、図書館への高い関心を持ってもらう機会となった。 ・「小学生向けクイズラリーで図書館探検」 「図書館クイズラリー」というタイトルで4月27日(日)実施（参加：子ども33人、定員50人）。図書館内をじっくり回っていただくことで、ブッククイズや自動貸出機も体験いただくことができた。 ・「子どものための図書館活用術講座」 5月6日(火)実施（参加：大人2人、子ども2人、定員：10人）。本を借りる場所というだけでなく、子ども自身で調べる力を身に着け、調べ学習に取組む力を養っていただく機会とした。 ・「夏休み・自由研究サポートコーナー設置」 「きらめきの世界へ 君だけの万華鏡をつくろう」というタイトル6月29日(日)に講座を実施（参加：大人8人、子ども7人、定員：子ども10人）。そのほか自由研究コーナーとして関連書籍やバスファインダーを設置し、子ども達の夏休みの課題を支援することができた。 ・「図書館シールラリーチャレンジ」 4月23日～5月12日実施（台紙配布数：218枚、景品配布128個）。春の読書週間に合わせて開催。読書活動を通じて本や図書館への関心を高め、図書館の魅力を伝える活動の一環として実施した。	3	計画に基づき事業を実施しており、参加者の感想は肯定的であることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。次年度以降の事業実施に向けて、効果検証にも努められた。

		眼への興味を引き出し、図書館への来館頻度と貸出数の増加、おはなし会参加の促進を目的とし、多くの子どもたちに参加したいに。 ・「たくさん読んでガチャマシーンをまわそう!」「図書館周ってガチャガチャ!」 「たくさん読んでガチャマシーンをまわそう!」は4月23日(水)～5月12日(月)まで(参加112人)、「図書館周ってガチャガチャ!」は9月28日(日)(参加145人)の年間2回実施。4月は開催期間中に本を15冊借りるとガチャを回せる内容。9月は館内に設置したクイズを解けばガチャを回せる内容とした。いずれも読書推進や図書館利用の増加を目指したもので、多くの子どもたちに参加いただくことができた。 ・「図書館長になってみよう」 3月1日(日)に実施。応募者から2人を抽選で選出し、書類の押印や入口での利用者への挨拶など、1日図書館員とは違う内容に取組んでいただき、館長業務の理解を深めていただいた。 ・「プログラミング講座」 「初心者向けプログラミング講座」として6月22日(日)と11月3日(月)の午前・午後、合計4回実施(参加:大人7人、子ども15人、定員:各回5人)。外部組織との連携準備のために単独で実施したもの。弊社が全国展開している部材「こり」を使用し、小学生から参加できるような教室を実施した。令和8年度は大阪工業大学と連携して8月頃に実施するよう調整中。 ・「親子でオリジナルスタンプづくり体験」 8月2日(土)実施(全2回、参加:大人7人、子ども9人、定員:各回10人)。スタンプ用のシートを使いオリジナルスタンプをつくって絵を描くワークショップ。「小学生が体験できるイベントはうれしい」というお声を保護者からいただいている。今後も様々な体験を提供できるよう企画を行いたい。 ・「小学生向けSDG s まちあるき探検」 枚方環境ネットワーク会議協力のもと、11月16日(日)に実施(参加:子ども3人、定員:15人)。天の川堤防沿いを歩き、自生している植物について解説を受ける内容で、参加者が生物多様性や環境問題を学ぶ機会を提供することができた。 ・「中高生サポーターを募集・活動」 10月15日(水)～11月14日(金)の期間、大阪仰星高校および枚方T-SITEと共催で「現役高校生が選ぶ今みなさんに届けたいオススメの本」と題して、大阪仰星高校の1年生が選んだ作品約50点をオリジナルPOPを添えて展示した。また、3月15日(日)には、枚方市内の中高生を対象に自身のおすすめ本を展示する本棚作成するイベントを開催。こちらは参加者が集まらなかったことから、令和8年度に企画を		
・図・学校連携による読書活動推進として、「見学受入れ・出張図書館サービス」、「図書委員応援講座」、「おめでとう1年生(新1年生オリエンテーション)」(令和7年度実施、令和8年度以降年1回以上実施)を行っているか。	3	・5月22日(木)図書館見学受入(津田小3年生児童9人・教諭1人)。学習指導要領を確認の上、公共図書館の意義や職員の役割、拡大読書器やコミュニケーションボードなどの障害者サービス、自動貸出機やBDSといった館内の設備、電子書籍等のサービスについて案内したのち質疑応答の機会を設けた。 ・「おめでとう1年生」 2月18日(水)に、枚方保育所を訪問して今年の春に1年生になる園児30人に向けて、おはなし会、ブックトーク、工作を実施。おはなし会やブックトークには、入学や学校生活に関する本を導入し、小学生になる喜びを感じてもらった内容とした。	3	見学受け入れによる小学校との連携が行われており、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。次年度以降もさらに園や学校への働き掛けを積極的に行い、良好な関係を構築し、読書活動推進につながるよう努められたい。
一般成人を対象とした図書館読書振興事業が提案されている。(確認事項2-7)				
・生涯の学びを支え、人と人の交流を創出する図書館として、「図書館活用講座」(令和7年度実施、令和8年度以降年1回以上実施)、「大人の調べる学習体験講座」(令和8年度実施、令和9年度以降年1回以上実施)、「枚方市民に読んで欲しいわたしの一冊」本棚の設置・SNSで発信を行っているか。	3	・「図書館活用講座」5月23日(金)(参加:大人1人、定員10人)。大人向けということで18時開始としたが、参加者は1人にとどまり、今後広報・集客の課題が残る。 ・「大人の調べる学習体験講座」は令和8年7月に実施予定。 ・「「枚方市民に読んで欲しいわたしの一冊」本棚」 オープン時のイベントにてかわった方々や近隣の施設(鳥屋書店、ビーゴ!、生花屋、珈琲店など)で働く方の推薦図書展示を継続している。今後SNSでの発信を実施する。	3	多様な特集・展示は魅力的な活動として評価できる取り組みであり、近隣施設等との関係も継続しており本市要求事項を満たし、事業計画どおりに実施していると判断できる。引き続きの事業展開と課題への対応を期待する。
・多様な人々が利用できる図書館として、「りんごの棚」の設置、「障害がある子どもたちを図書館へ招待」(令和8年度実施、令和9年度以降年1回以上実施)、「R.E.A.Dプログラムの実施(令和7年度以降年1回以上実施)」、「やさしい日本語での図書館ツアー」(令和7年度実施、令和8年度以降年1回以上実施)、「ボランティアの募集・講習会・交流会」を行っているか。	3	・「りんごの棚」 1月10日(土)に館内に設置。LLブックや点字、ピクトグラム絵本など約40冊を選書して排架。今後利用状況を見ながら新たな本を加えていく。 ・「障害がある子どもたちを図書館へ招待」(令和8年11月実施予定)。 ・「R.E.A.Dプログラム」 2月1日(日)「日本レスキュー協会」の協力を得て開催(参加:大人8人、子ども8人、定員:子ども10人)。2頭のセラピードッグに対し、参加した子どもが絵本の読み聞かせをしたほか、ふれあい体験も行った。なお、セラピードッグには必ずハンドラーが同伴するとともに、会場までの運び入れにはゲージ使用、会場への大型シートの敷設、清掃の徹底など、安全面・衛生面に十分配慮した上で実施した。 ・「やさしい日本語での図書館ツアー」 6月8日(日)実施(参加:大人1人、定員10人)。参加者は1人であったが、終了後に新規に利用者登録をしていただくことができた。令和8年度以降は生涯学習交流センターで行われている読み書き教室などをターゲットに広報を拡充する。 ・「ボランティアの募集・講習会・交流会」 配架ボランティア説明会を8月31日(日)(参加:6人)と9月2日(火)(参加:3人)に実施し、9月30日から実際に作業に入っていた。3月31日までに、延べ81人の方に作業をしていただいた。 おはなし会ボランティア説明会は9月10日(水)(参加:3人)、9月14日(日)(参加:5人)に実施。その後おはなしボランティアのおはなし会は、9月23日、11月1日、12月6日、12月14日、2月7日、3月7日の合計6回実施していただいた。いずれのボランティアもご本人の希望の日時に活動いただけるよう調整し、市民の社会貢献活動を後押ししている。 なお、R8年度に向けたボランティア説明会を3月27日(金)と3月29日(日)に実施し、排架ボランティア16人、おはなし会ボランティア10人の応募があった。	3	図書館振興事業の一環として図書館に関心がある方が図書館で活躍できる機会を創出し、20人以上のボランティアの活動を後援していることは、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに実施していると判断できる。引き続き、多様な人々が利用できる図書館として、施設の特色を生かした取組を期待する。

電子図書館の利用を増やす取組みが提案されている。(確認事項 2 8)					
	・「いつでもどこでも本が読める」取組の推進として、「ひらかた電子図書館合同体験会」(令和7年度以降年1回以上実施)、「シニア向け：デジタルコンシェルジュによる電子図書館講座」(毎月1回実施)、「学校向け：電子図書館出張講座」(要望に応じて随時)、「ひらかた電子図書館に「独自資料の登録・公開」を行っているか。	2	・「ひらかた電子図書館合同体験会」 他の分館で体験会を実施する際に、お互いに次の体験会の案内を行うなどの連携を実施している。令和7年度については市駅前図書館での合同体験会の実績は無し。令和8年度6月に実施を予定している。 ・「シニア向け：デジタルコンシェルジュによる電子図書館講座」 「電子図書館体験会」とのタイトルで実施。上半期は4月21日、5月10日、6月28日、7月12日、8月9日、9月13日の6回、下半期は10月11日、11月8日、12月13日、1月10日、2月14日、3月14日の6回実施し、年間12回実施した(参加：13人)。各回平均1人程度の参加にとどまっており、今後参加人数を増やすための工夫が必要である。 ・「学校向け電子図書館出張講座」 要望に応じて随時実施するもの。現在申込がないため学校にアピールしていく。 ・「独自資料の登録・公開」 以前のモニタリング時に、独自資料の容量上限についてご教示いただいたが、令和7年度の実績は無し。令和8年度8月実施予定のイベント成果物の掲載を予定している。	2	電子図書館の認知度を上げる取組として体験講座を毎月実施するなど本市要求事項を概ね満たしているが、「学校向け電子図書館出張講座」や「独自資料の登録・公開」については、事業計画どおりに実施できていない。今後、学校等へのアプローチや独自資料の登録・公開など、電子図書館利用を増やす取組を進められたい。
立地条件を踏まえた利用者分析に基づく事業が提案されている。(確認事項 2 9)					
	・オンラインデータベース等を活用した利用者に係る分析(枚方市駅周辺＝ビジネスパーソンが多く行き交うエリア)に基づき、働く人の仕事と暮らしを支援するための時短読書「flier」の導入を行っているか。	3	・市場情報評価ナビ「MieNa」を活用し分析した結果を踏まえ、ビジネスパーソン向けに、ビジネス書・教養書の要約が読めるデータベース「flier」を導入済み。利用拡大に向けて施策を検討中。	3	ビジネスパーソン向けのオンラインデータベース「flier」を導入しており本市要求事項を満たし、事業計画どおりに実施していると判断できる。今後は、データベースの利用状況や利用者の評価を知る取り組みを検討されたい。
	・働く人の「学び」と一人暮らし・共働き夫婦の「暮らし」に役立つ本の「学びと暮らしの応援展示」を実施しているか。	3	・7月に子育て世代の育児の悩み解消を目指し、暮らしに役立つ本を集めた特集展示「ともに育つ」を実施。また、2月には一人暮らしに役立つ本や、個人の学び・楽しみを支援する本を集めた特集展示「ソロ活」を実施した。特集展示の前で足を止める利用者も多く、好意的なご意見もいただいている。	3	子育て世代や一人暮らしのビジネスパーソンを対象とした特集展示を実施するなど、事業計画通りに実施していると判断できる。
	・仕事帰りの立ち寄りスペースとして紹介本がなくても傍聴者として参加できる「寄り道手ぶら読書会」を実施しているか。(令和7年度2回実施、令和8年度以降年2回以上実施)	3	・定期読書会とは別に、「大人のための絵本読書会」を8月22日(金)に(参加：大人3人、定員6人)、「夜の読書会」を2月27日(金)に実施した(参加：大人7人、定員6人)。仕事終わりで参加しやすい19時から開催し、20代から70代まで幅広い年齢層に集まていただくことができた。2回目のテーマを設けず開催する形式の読書会が、より好評であったことから、今後もこのスタイルを基本に実施していく。	3	定期読書会とは別の「大人のための絵本読書会」や「夜の読書会」の実施を確認した。仕事終わりで参加しやすい気軽に参加できる読書会の継続した取組みを期待する。

(カ) 連携事業提案（生涯学習交流センター）				
生涯学習交流センターと図書館との施設連携事業の実施について、具体的に提案されている（確認事項30）				
・図書館専門企業ならではのノウハウやコンテンツ、業界内外のつながりを活かしたワークショップや図書館併句ポスト、ボードゲーム交流会等の生涯学習事業を事業計画に記載する回数で実施しているか。	3	生涯学習交流センターと図書館との連携事業は、今年度は4回実施。 「図書館併句ポスト」は昨年度より継続して実施しており、定期的にセンターからの「入選者」が出るなど、参加者のレベルも高く、毎月月初に貼り出される「結果」には多くの利用者が足を止めて見入る、それを話題に盛り上げるなどの光景も日常的に見られ注目度も高い。 「おたんじょうびをおいおいしよう」も昨年度より継続して実施しており、毎週ある図書館主催の「赤ちゃん向けおはなし会」と合わせて実施することで、「このイベントの時には、今月のおたんじょうびの子どもをみんなで祝いする」のが定例化しており、同じ月齢の子どもや誕生月の子どもの保護者同士がそれを話題に盛り上がるなど、交流している姿も見られる。 「京本写真実展 枚方にまわる風景」は、市内のさだ図書館からの巡回展示の形で実施。 京阪電車を中心に飾られた15枚のパネルは、枚方市内を走る「京阪電車」というキーワードで人々をつなげ、「懐かしい」電車好きな子どもが喜んだ」等、世代を超えての交流や懐かしい思い出話に花が咲くなど、人々の交流が生まれるきっかけにもなり、また展示スペースの活用例としても注目度が上がり、センターの活動団体からも「あの展示スペースを使うにはどうすれば良いか」との問い合わせが相次ぎ、年度後半の展示スペースの予約がすべて埋まるなど、有効な活用事例としても十分に役立っていた。 「図書館データベース活用講座～かんぼうデータベース編～」令和8年2月18日実施。（参加者8人 定員12人） 中央図書館所蔵で、一般の方にはあまりなじみの少ない「官報(かんぼう)」を使ってのデータベース活用講座を開催。夜間利用の促進と、仕事帰りのビジネスパーソンを狙っての企画で、8人の方に参加いただけた。中央図書館所蔵のデータベースなので、駅前図書館では使えないのだが、参加者には特典として「一定期間自宅等で自由にかんぼうデータベースが利用可能になるI D / P W」の進呈もあり、参加者は皆、真剣に講師の説明に耳を傾け、終了後には「こういった学びを身近に、無料で受けられるのは素晴らしい」「図書館にそうしたサービスがあるのを初めて知ったので、今後活用してみる」等、新しい学びや発見を見出しているようであった。	3	計画通りの事業本数を実施しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。 「おたんじょうびをおいおいしよう」により「赤ちゃん向けおはなし会」の参加者の増加にもつながり良い連携がとれている。
枚方市駅直結の立地を生かし、ビル内のテナントなど周辺施設等との連携を意識した賑わいづくりや市民等の交流の機会の創出を目的とした事業について、具体的に提案されている（確認事項31）				
・総合文化芸術センターや市立枚方宿健屋資料館、各生涯学習市民センターといった周辺施設や、各テナント等と連携した人々の学びとアクティビティを後押しする連携事業を事業計画に記載する回数で実施しているか。	3	今年度は「地域連携」として、生涯学習交流センターの主催事業として、下記の2回の事業を実施。 令和7年6月14日(土)に行われた総合文化芸術センターの「H-Artsフェスタ」でのスタンプラリーの「館外チェックポイント」として場所を提供し、市内の人流創出、特に枚方市駅周辺のにぎわい創出と「学びとアクティビティの場づくり」において貢献した。さらに同日にはセンターの自主イベントとして「ロビー工作」を同時開催。総合文化芸術センターのスタンプラリーを目当てに来場した方を、さらにセンター利用へ呼び込むための工夫として、お互いの人流が行き来できるような相乗効果を狙って実施したところ、短い通り2つのイベントに同時に参加される方もおられ、にぎわい創出に貢献ができた。 令和7年11月15日(土)～12月8日(土)にかけて、枚方宿健屋資料館より講師の片山正彦氏をお招きし、毎週1回・全4回の「くずし字講座」を開催。 過去に市内図書館では平日の日中に開催しているイベントを、交流センターのターゲット層に合わせ「土曜日夜間」で開催。どなたも熱心に講師の解説のもと、古文書を読み解き、学ぶ楽しさを改めて実感しているようであった。 そのほか、図書館の主催事業として、生涯学習交流センターと協力して下記の2回の事業を実施。 11月23日(火・祝)にT-SITEと共催で、作家柴崎友香氏・山内マリコ氏による対談イベント「作家2人のスイッチインタビュー」を開催（参加：大人23人、定員70人）。作家の対談を聞くことでその著作に関心を持ってもらい、読書のきっかけとなるイベントとなった。 12月27日(土)には、枚方市穂谷の放置竹林問題に取組む団体「枚方市竹林工房 銀」と枚方市駅周辺の花屋「fureru.」との共催で、ミニ門松づくりのワークショップを実施した（全2回、参加：大人各回6人、定員：各10人）。正月の前に市民の関心の高いワークショップを行うことに加え、材料に枚方市内の竹を使用することで、放置竹林の問題にも目を向けていただく機会となった。	3	計画通りの事業本数を実施しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。 引き続き連携を継続していただきたい。
(キ) 連携事業提案（図書館）				
こども家庭センターとの連携事業が提案されている。（確認事項 3 2）				
・まるっとこどもセンターとの連携事業として、「まるっと子どもセンターの広報活動の支援」、「まるっと子どもセンターでの講座や交流会などのイベント時の出張展示、展示本のブックリストの作成、SNSでの発信」、「まるっと子どもセンターでの健診時に図書館スタッフによる出張図書館」の実施（週1回以上2時間程度）「保護者向け電子図書館体験会」を行っているか。	3	・週1回図書館スタッフをまるっとこどもセンターに派遣（2歳6か月健診）。約2時間にわたり絵本や電子書籍の紹介し図書館への誘導を行っている。その結果、図書館でおこなっている「赤ちゃん向けおはなし会」に、こどもセンターの利用者が数多く来ていただけるようになった。また、ブックダイアリーをこどもセンターで配布していただいているため、ダイアリーを持って図書館に新規登録にお越しになる市民も増えた。図書館に設置されているサイネージにて、まるっとこどもセンター主催事業の情報を投影、広報活動でも支援を実施している。	3	2歳6か月健診へのスタッフの派遣など、まるっとこどもセンターとの連携により、図書館の利用増につながっており、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。 今後も、まるっとこどもセンターでの講座等とコラボした出張展示や展示本のブックリスト作成・配布といった連携にも取り組まれるよう期待する。
ビル内のテナントなど周辺施設等との連携を意識した事業が提案されている。（確認事項 3 3）				
・人々の暮らしに「本との出会いの場」を作る取り組みとして、「枚方市総合文化芸術センター連携事業」、「枚方バイオネ連携事業」、「枚方市内図書館連携事業」、「施設・テナント連携による読書活動啓発ポスターの作成」、「ホテル連携事業：トラベルライブラリーの設置」、「テナント連携（菓子店）」、「テナント連携（飲食店）」、「テナント連携（書店）（令和7年度以降年1回以上実施）を行っているか。	4	・総合文化芸術センターのセンター祭り「H-Artsフェスタ」に参加 6月14日(土)総合文化芸術センターにて絵本の広場、おはなし会を実施（参加：大人27人、子ども29人）。また、読解きイベントのポインを総合文化芸術センター・図書館におくことで、両施設の利用を促した。お互いに普段リサーチできない層へのアプローチができたという点で意義のあるイベントとなった。 ・周辺施設（バイオネ・鳥屋書店など）のスタッフ様のおすすめ資料展示を継続している ・枚方モールテナント「Sleep Smile」店長を講師に招いた「快眠セミナー」 9月23日(火・祝)実施（参加：大人33人、定員40人）。18%の方が初めての来店で、カードを作ったくださった方もありイベント実施することで新規来館者を獲得することにつながった。 ・「ひらかたブックストリート」参加 6月7日(土)実施。まず駅前図書館にて、参加書店・ブックカフェ紹介（約10店舗）を行ったあと、参加者がそれぞれ自由に書店やブックカフェを巡り、図書館に戻って感想などをシェアするイベント。新規来館、登録者に加え、図書館利用の少ない30-50代へのアプローチができたこと、図書館の利用を増やすことだけでなく「地域の読書推進」という意味では素晴らしい好事例となった。 ・「ひらかたブックバザール」参加 6月28日(土)実施。上記イベントの第二弾。ニッパークに書店や出版社、ブックカフェなど、本をキーワードに約60の出店者が一堂に会するイベント。図書館は絵本を並べ、図書館や電子図書館、スマート登録の案内を行いながら、おはなし会を実施した（参加：大人16人、子ども16人）。後日別のイベントに参加したところ「図書館の人」として市民から声をかけていただくことがあり、外部のイベントに参加することの意義を実感した。 ・「AROUNDひらかたオタム」参加 9月23日（火・祝）にステーションビル枚方主催のイベントに参加。こちらのイベントでも、野外に絵本を並べ出張図書館を行い、電子図書館、スマート登録の案内に加えておはなし会を実施した。 ・「13000系かんしゃトーマス号ラッシュイベント」参加 11月3日(月・祝)に京阪電車のイベントにて出張図書館とおはなし会を実施。電車の中でのおはなし会であったが、イベントに参加した子どもたちに楽しんでもらえたことができた。また、イベントには枚方市外の参加者も多く、市外の方にも図書館をアピールすることができた。 ・「作家2人のスイッチインタビュー」実施 11月16日(日)にT-SITEと共催で実施（参加：大人23人、定員70人）。申込は27人あり、23人の方が参加した。作家の柴崎友香氏と山内マリコ氏による対談イベントは参加者に大変好評であった。また作家の対談イベントはT-SITEと連携したことにより実現したものであり、市民の「本との出会いの場」を作る取組みとして有意義なイベントとなった。 ・12月27日(土)に枚方市穂谷の放置竹林問題に取組む団体「枚方市竹林工房 銀」と枚方市駅周辺の花屋「fureru.」との共催で、ミニ門松づくりのワークショップを実施した（全2回、参加：大人各回6人、定員：各10人）。正月の前に市民の関心の高いワークショップを行うことに加え、材料に枚方市内の竹を使用することで、放置竹林の問題にも目を向けていただく機会となった。 ・開館時より、近隣の各種団体・企業に積極的にアプローチすることで、多数の連携事業をおこなってきた。その結果、駅前図書館との連携の有用性が認知され、近隣団体から連携事業をしたいとのアプローチを多数いただくようになり、駅前図書館のプレゼンスを高めることができた。	4	周辺施設等との連携は、駅前図書館の特徴的な取組みとして注目されるもので、様々な事業の実施は、図書館の新規利用登録者数（分館で最多）や図書館の認知度（来館者数は全館で最多）向上につながっており、効果があったと評価できる。今後も積極的な施設の利用促進の可能性を追求されることを期待する。

ク) 利用者対応提案				
利用者に対する接遇対応向上について提案されている。(確認事項 3 4)				
・誰もが快適で居心地の良い場所となるよう、スタッフ行動目標をふまえた利用者対応を実施しているか。	3	カウンターでのあいさつに加え、フロア巡回時などにも目視による館内の安全確認に努めている。1時間に1回程度の定期的な巡回以外でも積極的な声かけを行ない、TRCのスタッフの行動目標である「明るく元気でいよう」「高いホスピタリティを発揮しようを発揮して、館内がさらに快適で居心地の良い場所になるようにスタッフ全体で努めている。	3	スタッフ行動目標をふまえた利用者対応を実施しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・施設の立地条件を踏まえたビル内の案内や周辺案内、観光案内なども含む問い合わせの窓口対応を行っているか。	3	ビル内の案内や周辺案内については、問い合わせに真摯に丁寧に対応できるようにしている。開館以降すぐに、商業施設の営業時間によって変わる施設への動線を3パターンにして「動線案内のチラシ」を作成して配布した。これは現在も利用者の求めに応じてカウンターで配布するほか、各入口の入館者ゲートにも掲示している。その他、「枚方市駅周辺情報」ファイルをカウンターに設置し、枚方モール内外のテナントや府税事務所等、周辺施設への道案内を含む利用者からの問い合わせ対応には、できる限り速やかかつ親切な対応ができるように常に準備している。そのほか、令和7年8月と令和8年2月にあった枚方モールの臨時休館では、館内やHP・SNSにて事前にモール内通路が通れない際の施設の導線(経路案内図)を写真付きでわかりやすく掲示し、利用者への事前の案内や説明に努めた。このように事前の告知から枚方モールの臨時休館日(当日)にかけて丁寧な対応をしたことで、利用者から「おかげで当日に慌てず安心して利用ができた」という感謝の言葉をいただいた。	3	施設の立地条件を踏まえたビル内の案内や周辺案内を行っているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・接遇サービスに関する研修を実施しているか。	3	令和8年3月23日(月)に認知症サポーター養成講座を実施し、スタッフ全員が受講した。受講者には「オレンジリング」が配布され、普段のカウンター対応等に活かすことができると、研修終了後もあちこちでスタッフ同士が話し合い、自分たちの行動やサービスについて振り返り、事例を確認し合うことで、より効果を生んでいるように思う。この研修により、高齢者や認知症を患う利用者に対して、どのような対応・接遇が求められているかスタッフ全員で学習・認識を合わせることができた。今回学んだことは、今後の接遇サービスに活かしていく。	3	認知症サポーター養成講座を実施するなど、様々な利用者に対する接遇対応向上に取り組んでいるため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
利用者が安全に利用できるよう施設内で発生するトラブルへの対応方法や利用者等の安全・秩序維持のための適切な対応方法等について提案されている。(確認事項 3 5)				
・「危機管理マニュアル」の整備や館内の定期巡回を実施しているか。	3	TRCの危機管理マニュアルを準備し、全スタッフに共有している。館内では1時間に1回程度の定期的な巡回を行い、館内の秩序維持・安定に努めている。	3	「危機管理マニュアル」の整備や館内の定期巡回を実施しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・投票箱や利用者アンケート等の実施による利用者の声の傾聴、過去のケーススタディを活かしたクレーム対応のスキルアップ、館内状況への常時の気配りなど、苦情や利用者トラブルを未然に防ぐ仕組みづくりを行っているか。	3	館内に投票箱を設置し、利用者からご意見があれば対応できるようにしている。今年度の利用者アンケートは、1回目は令和7年10月10日(金)～26日(日)の期間に、2回目は令和8年3月7日(土)～22日(日)の期間に、それぞれ紙とWEBで実施。1回目は803人、2回目は375人の利用者に回答いただいた。寄せられた意見やコメントは、全スタッフが閲覧・確認し、日々の業務に反映している。	3	苦情や利用者トラブルを防ぐ仕組みづくりが行われているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
利用者トラブル発生時の対応策を整備し、枚方市との情報共有を徹底しているか。	3	利用者からカウンターなどでスタッフにご要望やお問い合わせがあった際には、丁寧にヒアリングし、その後上長に報告。即時対応できるものは、速やかに対応して、協議が必要なものは館内や所管課と共有の上、その変更点や内容についてはセンター・図書館の業務連絡で漏れないように周知を行い、全スタッフに共有している。	3	トラブル発生時の対応策を整備するとともに情報共有が適切に行われているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
利用者サービス向上の観点からセルフモニタリングの計画を提案するとともに、利用者に対するアンケートの実施について提案されている。(確認事項 3 6)				
・仕様書、業務要求水準事項、事業計画書の履行状況に関するチェックリストに基づく、各業務責任者を中心とした年4回のセルフモニタリングを実施しているか。	3	仕様書、業務要求水準事項、事業計画書に基づき、毎年6月・9月・12月・3月の時点での進捗状況をチェックするセルフモニタリングを実施している。	3	セルフモニタリングの実施を確認しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・年2回の利用者アンケート調査および非利用者のニーズを探るためのWEBアンケートの実施。また、各施設年1回の利用者懇談会の実施しているか。	3	利用者アンケート今年度2回実施。1回目は令和7年10月10日(金)～26日(日)の期間に、2回目は令和8年3月7日(土)～22日(日)の期間に、それぞれ紙とWEBで実施した。センターの利用者懇談会は令和8年1月16日(金)に実施、全体に大きなトラブル等もなく終了した。	3	年2回の利用者アンケート及び利用者懇談会を実施しており、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・ご意見箱・子どもおたよりコーナーを設置しているか。	3	「ご意見箱」と「子どもおたよりコーナー」は同じものとしてカウンター前の記載台に設置している。子どもと思われる利用者からの意見や感想が入ることはある。「(〇〇の本が欲しい)」「本を貸してくれてありがとう」等)カウンター等で頂いたご意見については、即時対応できるものは対応し、適宜その内容を所管課とも共有している。即時対応した例として、移動式読書「複数枚使いたい」「和室・フールームなどで使用したい」というものがあり、備品として追加購入し、人数が少ないダンスや体操系の団体でも「部屋の規模を問わず活動がしやすくなった」と喜んでいただいた。	3	ご意見箱(子どもおたよりコーナー含む)を設置しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・利用者の声を共有し、対応可能なものは迅速にサービスに反映しているか。	3	利用者からカウンターなどでスタッフにご要望やお問い合わせがあった際には、丁寧にヒアリングし、その後上長に報告。即時対応できるものは、速やかに対応して、協議が必要なものは館内や所管課と共有の上、その変更点や内容についてはセンター・図書館の業務連絡で漏れないように周知を行い、全スタッフに共有している。	3	利用者の声を共有し、対応可能なものは迅速にサービスに反映しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
業務に従事する者が、人権について正しい知識を持って業務を遂行できるよう、人権研修について提案されている。(確認事項 3 7)				
・人権についての知識と理解を深める研修を実施しているか。	3	昨年度は令和6年8月に障害者サービス研修・接遇研修を実施。人権についての知識と理解を深めた。今年度は令和8年1月26日(月)に、センター・図書館の全スタッフが休館日を利用しての集合研修として実施。講師は枚方人権まちづくり協会に依頼。「公共施設で働く際に配慮すべき点」について、「人権」をテーマにお話いただき、参加したスタッフからは「改めて自分の行動や振舞いを振り返るきっかけになった」や「普段の行動の中で気を付けるべきポイントが良分かった」と、サービス・接遇のブラッシュアップに効果的な知識や見識がアップデートできたという意見が多く聞かれた。	3	人権についての知識と理解を深める研修を実施しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
【施設の管理に関する事項】				
関係法令及び本市条例・規則を遵守し、施設の設置目的に沿った管理計画が提案されている(確認事項38)				
・関係法令等の遵守および設置目的に沿った管理計画を実行しているか。	3	図書館法や生涯学習市民センター条例に基づきように留意し、施設の設置目的に沿った管理計画に則った運用をしている。そのうえで、適切な保守管理に努め、利用者の安全確保を第一として「事故を出さない施設づくり」、「利用者満足度向上に向けた施設環境及び美観向上に向けた改善」を計画的に実施していくような運営を実施する。	3	関係法令等の遵守および設置目的に沿った管理計画を実行しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
基本仕様書の規定に従い、資格を必要とする業務に有資格者を配置するなど適正な人員配置が提案されている。(確認事項39)				
・総括、副総括責任者を筆頭に、各施設、リーダー・サブリーダー等は仕様書に定める業務実施体制を確保しているか。	3	総括、副総括責任者及び各施設リーダー・サブリーダーは仕様書の条件を満たし、業務実施体制を確保している。	3	総括、副総括責任者及び各施設リーダー・サブリーダーは仕様書の条件を満たし、業務実施体制を確保しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・図書館スタッフの70%以上が司書・司書補、司書教諭資格を有する体制をとっているか。	3	令和8年3月31日現在、司書率は82.4%。	3	図書館スタッフの70%以上が司書・司書補・司書教諭資格を有する体制をとっているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・「地域連携・広報サブリーダー」として、「地域連携担当者」と「広報担当者」を配置しているか。	3	「地域連携担当者」1人と「広報担当者」2人を配置している。	3	「地域連携・広報サブリーダー」として、「地域連携担当者」と「広報担当者」を配置しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。

日常的・定期的に施設を巡回・点検するなど、利用者が安全かつ快適に過ごせる環境の整備について提案されている（確認事項40）				
・挨拶の励行や危険情報の把握など、施設内での犯罪行為等の防止や抑止力向上に向けた取組みを行っているか。	3	カウンターでのあいさつ励行に加え、フロア巡回時などにも館内の安全確保に努めるように、定期的な巡回（1時間に1回程度）や積極的な声かけを行なって、館内の秩序保持に努めている。 転倒可能性のあったカウンター前・バーテーションの移設やおはなしスペース内にあった丸テーブルを外側へ移動した。他にも、乳幼児がいたずらをする可能性がある一部の柱や壁にある埋め込み型のコンセントを封鎖するなど、安全性向上に努めた。	3	挨拶の励行に加え、施設内での犯罪行為等の防止や抑止力向上に向けた取組みとして定期巡回や、けがの原因となりうる物品の移動などを行っていることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
備品管理に当たり、管理簿の整備および責任所在について提案されている。（確認事項 4 1）				
・「無償使用可能備品等一覧表」をもとに施設備品等の状態や数量を確認の上備品管理簿に記載し、備品の修繕・更新を実施。また、年1回棚卸を行い、備品管理簿を更新しているか。	3	備品棚卸を月に1回程度実施し、状況の把握に努めている。	3	施設備品等の状態や数量を確認するため、備品棚卸を実施しており、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
環境に配慮した管理運営を目指し、ごみの削減、節電、節水、省エネルギー等具体的に提案されている（確認事項42）				
・循環型社会の基本的な考え方である5Rの取り組みを行っているか。	3	紙資源等のリサイクル推進によるごみの減量以外にも、エコマーク商品、グリーン購入法適合商品、グリーン購入ネットワーク（GPN）が運営する「エコ商品ねっと（GPNデータベース）」に掲載されている商品、メーカーがグリーン購入適合と定めた商品を購入することで、5Rの推進を進めている。	3	5Rの取組みを実践しているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・除籍図書や雑誌、不要な紙類を引き取り、リサイクル・再製品化するブック・エコを推進しているか。	3	除籍図書や新聞、受入しない寄贈本等は、中央図書館に送付し古紙回収に回していただいている。	3	除籍図書や雑誌等を中央図書館の古紙回収に入れており、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
業務に従事する者及び利用者の手指や備品の消毒、施設の換気等、感染症の拡大防止策が提案されている（確認事項43）				
・必要に応じた飛沫防止や消毒液の設置など臨機応変な感染症対策を実施しているか。	3	消毒用アルコールはカウンターに常時設置。図書館には図書除菌機を設置し、利用者の健康意識の向上に努めている。	3	カウンターへの消毒液の設置等、感染防止対策を実施していることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
【情報公開および個人情報保護の措置に関する事項】				
枚方市情報公開条例の目的等を踏まえ、管理運営事業で保有する情報の公開に関する対応が明確に示されている。（確認事項 4 4）				
・開示請求に対応する真摯な姿勢と自治体との協調、個人情報や第三者情報への十分な配慮を行っているか。	3	所管課と協力して個人情報や第三者情報に配慮しながら、適切な対応をするように努めている。	3	個人情報や第三者情報に配慮しており、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・利用者アンケートの集計結果やご意見、その対応策などの館内掲示板、公式ホームページ、Instagram等への掲載による市民に対する積極的な情報開示を行っているか。	3	利用者アンケートの集計結果のほか、休館日及び混雑状況の可視化など、市民及び利用者に対し積極的かつ施設利用につながるような効果的な情報公開を行っている。	3	Instagram等を利用し積極的に情報発信を行っていることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
個人情報保護法及び関係法令の目的等を踏まえ、個人情報の保護に関する必要な措置について明確に示されている。（確認事項 4 5）				
・個人情報保護に係るマニュアルや規定、チェックリストを整備しているか。	3	個人情報保護チェックリストを作成し、その手順を全スタッフで確認している。このチェックリストは作業マニュアル（手順書）も兼ねている。	3	個人情報（ほ）チェックリスト・作業マニュアル（手順書）を備えているため、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・個人情報保護に関する研修を実施しているか。	3	年に1回（令和7年度は10月27日（月））に実施。個人情報保護研修を実施し、全スタッフが参加。就業時の個人情報について意識を高め、再確認する場としている。	3	個人情報保護に関する研修を実施しており、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・個人情報保護に関する就業規則を遵守しているか。	3	個人情報保護に関する誓約書を入社時及び枚方市内施設への配属時にそれぞれ提出している。	3	個人情報保護に関する就業規則を遵守していることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・年1回の社内監査チームによる定期監査を実施しているか。	3	今年度は令和7年11月17日（月）に実施。問題や大きな指摘事項はなかった。	3	社内監査チームによる定期監査を実施。本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・バインダーの使用や申請書類別の仕分けなど個人情報保護対策の取組みを行っているか。	3	個人情報書類はバインダーで挟み紛失を防止。カウンター内でも種類別にファイリングし、作業途中でスタッフが入れ替わってもなくすことがないよう工夫している。 令和7年度、配布文書の誤配布にかかる事案があったため、より対策を強化し、一つ一つの作業を丁寧に、今後は同様の事案を起こさないよう注意喚起・作業手順の徹底を行う。	2	普段より、個人情報の紛失を防止するための対策を行っているが、令和7年度、配布文書の誤配布にかかる事案があったため、再発防止に努めることを求める。

【緊急時における対策に関する事項】				
緊急時・防犯・防災対策の危機管理マニュアル作成等が提案されている。（確認事項 4 6）				
・「危機管理マニュアル」を策定しているか。	3	TRCの危機管理マニュアルを作成している。	3	「危機管理マニュアル」を策定していることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
緊急事態発生時又は発生が予測される場合における常時連絡可能な体制・方策が提案されている。（確認事項 4 7）				
・大規模災害時の職員の参集配備体制表を作成しているか。	3	1号配備時には所長・館長のみ。参集配備体制表を作成している。	3	大規模災害時の職員の参集配備体制表を作成していることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・緊急時の指揮系統と連絡系統を設定しているか。	3	危機管理の連絡フローを会社として作成。また、自衛消防組織図を個別に作成し、有事に備えて誰もが「自分ごと」として行動できる体制を作っている。	3	緊急時の連絡体制、自衛消防組織図の作成など、体制整備を行っていることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・総合消防訓練や避難訓練、消火訓練、危機管理研修、救急救命講習、防犯講習を各年度1回実施しているか。	3	令和 7 年 7 月 28 日(月)にセンターと図書館が合同で「救命講習」を、8 月 25 日(月)にはビル全体での「総合消防訓練」を実施。「総合消防訓練」では研修用DVDの視聴を通じて、「いざ」というときの心構えや「消火方法」「危機管理」に関する事象を全員で学び、有事に備えている。「避難訓練」は令和 8 年 2 月 19 日(木)に実施。センターと図書館からそれぞれスタッフが参加し、避難経路や2次場所の確認などを行なった。	3	総合消防訓練等、各種訓練を計画的に実施していることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
構成員間（本支社間含む）、市との間におけるリスク分担に対する考え方が明確に示され、かつ考え方に対応した分担内容となっている。（確認事項 4 8）				
・市と指定管理者との間におけるリスク分担表を理解し、誠実に対応しているか。	3	有事やトラブル発生時には、リスク分担表に基づき、市と協議の上誠実に対応する。	3	リスク分担表に基づき、協議の上、対応していることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・施設賠償保険に加入しているか。加入している保険の名称を明示できるか。	3	施設賠償保険に加入している。	3	損害賠償保険の加入を確認できていることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
【その他】				
高齢者・障害者サービスを維持・向上させる取組みについて提案されている。（確認事項 4 9）				
・認知症サポーターを配置しているか。	3	令和8年3月23日(月)に「認知症サポーター養成講座」を実施。相手の困りごと、気持ちに寄り添うための考え方や行動について、センター・図書館の全スタッフが学んだ。	3	認知症サポーター養成講座を実施しており、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・拡大鏡や老眼鏡などの備品設置やコミュニケーションの工夫のほか、高齢者居場所づくりイベント、高齢者向けスマートフォン・電子図書館操作講座、認知症への理解促進事業の開催など高齢者の生涯学習と読書活動の支援を行っているか。	3	・老眼鏡・拡大鏡をそれぞれのカウンターに設置しているほか、カウンターには杖ホルダーを設置するなど、利用者の利便性向上に努めている。 ・学習障害などの特性をお持ちの方向けに、カウンターにリーディングトラッカーを設置している。また、LLブックなどを備えた「りんごの棚」を令和8年1月10日(土)に設置した。 ・高齢者居場所づくりイベントとして、6月26日(木)「季節の折り紙交流会」（参加：大人7人、定員8人）、10月13日(月)「健康体操」（参加：大人13人、定員15人）、2月22日(日)「シニアのテーブルゲーム」（参加：大人8人、定員10人）の合計3回実施。スタッフがサポートに入り、参加者同士で楽しんでもらった。いずれのイベントも人気が高くニーズの高さを感じている。また、普段図書館を利用しない方にもアプローチすることができたことから、今後もシニア世代に喜ばれるイベントを実施していく。	3	拡大鏡・老眼鏡の設置や高齢者居場所づくりイベントの開催等、高齢者支援を行っていることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・障害者サービス研修を実施しているか。	3	・令和7年11月14日(金)に実施された大阪公共図書館協会「障がい者サービス実務研修」にスタッフ1人が参加。その内容は資料整理日の全体会議にてスタッフ全体に共有した。	3	大阪公共図書館協会「障がい者サービス実務研修」にスタッフ1人が参加し内容を共有している。このことは、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・コミュニケーションボードや筆談ボードといったコミュニケーションツールの設置ややさしい利用案内の配布しているか。	3	コミュニケーションボードはセンター・図書館共用で、筆談ボードはそれぞれのカウンターに設置。利用者からの求めに応じ、適宜使用できるように準備している。	3	コミュニケーションボードや筆談ボードを設置していることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・バリアフリー読書支援を周知しているか。	3	・令和8年1月10日(土)に設置した「りんごの棚」にて、バリアフリー読書支援や利用方法などを周知している。	3	「りんごの棚」にバリアフリー読者支援や利用方法を周知しており、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。

施設の利用促進に繋がる広報活動等について具体的な実施計画が提案されている。(確認事項 5 0)				
・シンボルマークやロゴマークを活用した各広報ツールの制作などのブランディング戦略を行っているか。	3	施設の建築コンセプトを理解し、特徴的な意匠である施設中央の「シンボルツリー」「ボタニカルウォール」をデザイン化してシンボルマークを作成。この作成にあたっては、市内のデザイン会社・デザイナー・イラストレーター等に協力を依頼。 印象的なシンボルマークとして各広報ツール（印刷物、SNS、HP等）に積極的に使用し、施設全体のブランディング戦略として有効的に活用している。	3	シンボルマークを作成し、各広報ツールに積極的に使用しブランディング戦略を行っていることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。
・広報担当者を設置するとともに、Youtubeチャンネルの開設やニュースレターの制作など若年層から高齢者まで情報が行き届くような日常的な広報活動や多角的な広報活動を行っているか。	3	広報担当者を設置し、「YouTube」「SNS(Instagram)」「ホームページ」を開設し、施設の認知度アップ及びイベントの告知・参加者募集・施設のブランディングやイメージ向上にむけて積極的な投稿を行い、フォロワーを着実に増やしている。 ニュースレター（広報誌）の「knot(e)s」では、これまでイベント講師を務めていただいた市内の珈琲店の店主や生花店店主、眼科医からアーティストにいたるまで幅広い方から「学び」「交流」をキーワードに取材したインタビュー記事の掲載するほか、交流センターで活動するサークル団体の活動内容紹介などを行ない、より広い利用者の「知りたい」「学びたい」の欲求に応えている。 その他、「教えてライブラリアン」コーナーでは、館内での質問募集はもちろんのこと、若年層向けのSNSであるInstagramからもストーリー機能やリール動画を使った手法で継続的に質問を募集するなど、図書館とセンターが連動した「本を使った双方向コミュニケーションを行なう」ことでさらなる施設の価値向上・多角的な面からの利用者の「かわりしろ」を増やす工夫を行ない、より一層、現在の施設利用者だけでなく、未来の利用者とそのファンを増やすための広報活動を精力的に行っている。	3	広報担当者を設置し、YouTubeチャンネル・SNSなどの発信に力を注ぐとともに、毎月、広報誌による広報活動も合わせて行っていることから、本市要求事項を満たし、事業計画どおりに運営していると判断できる。

指定管理者による一次評価 平均点	3.1	所管部署による二次評価 平均点	3.1
------------------	-----	-----------------	-----

評価項目 1 (1)の評価基準		
S	事業計画における提案以上に、良好な管理運営を行っている	二次評価の平均点が4点以上
A	事業計画に則した適切な管理運営を行っている	二次評価の平均点が3点以上4点未満
B	事業計画の履行において一部努力が必要だが、概ね適切な管理運営を行っている	二次評価の平均点が2点以上3点未満
C	事業計画の履行において、抜本的な管理運営の改善が必要	二次評価の平均点が2点未満 または「1」の評価があり、かつ、その理由が重大な内容である場合

評価項目 1 業務の履行状況 (1) 選定時の基準 (確認事項) ・事業計画の内容 (目標) に関する事項の評価 (所管部署)	A
---	---

(2) 施設の管理運営に関する経費の収支状況 (使用料の収入実績を含む)

評価ポイントごとの評価基準	
○	適正 (適切) である
△	一部改善が必要であるが、概ね適正
×	不適正 (不適切) である

評価ポイント	指定管理者による一次評価		所管部署による二次評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由
・収支予算書と比較して収入額が大幅に減少していない。／大幅に乖離している場合、その理由は何か、また、その理由では妥当で、今後安定した収入を得られる見込みがあるか。	○	大幅に乖離していない。	○	大幅に乖離していないことを確認。
・収支予算書と比較して、想定外に多く支出している費目がない。／想定外に多く支出している費目がある場合、その理由は何か、また、その理由では妥当で、今後、予定外の支出が発生するおそれはないか。	○	想定外に多く支出している項目はない。	○	想定外に多く支出している項目がないことを確認。
・運用資金の借入れを行っていない。／借入れを行っている場合、その理由では妥当か。	○	運用資金の借入れは行っていない。	○	運用資金の借入れを行っていないことを確認。
・口座管理、つり銭等の現金管理は適正に行われているか。	○	現金管理は適正に行われている。	○	現金管理は適正に行われていることを確認。

評価項目 1 (2)の評価基準		
S	全ての項目が適正 (適切) であり、かつ、特に優れた点が見られる	全ての項目が○、かつ、特に優れた点が見られる
A	全ての項目が適正 (適切) である	全ての項目が○
B	一部改善が必要であるが、概ね適正 (適切) である	△が1個以上
C	不適正 (不適切) な点があり、直ちに改善を求める	×が1個以上

評価項目 1 業務の履行状況 (2) 施設の管理運営に関する経費の収支状況の評価 (所管部署)	A
---	---

(3) 募集要項・仕様書記載事項等に関する事項

評価ポイントごとの評価基準	
○	適正（適切）に実施している。
△	一部改善が必要であるが、概ね適正（適切）に
×	実施していない、又は不適切な点がある

評価ポイント	指定管理者による一次評価		所管部署による二次評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由
・募集要項2ページに記載している再委託禁止に関する事項を順守し、市の承認手続きが適切に行われているか。	○	再委託禁止に関する事項を順守し、市の承認手続きが適切に行っている。	○	図書館サービス業務など、募集要項に記載している再委託禁止事項を遵守し、適切に管理運営を行っていることを確認した。
・指定管理業務に伴い発生する経費及び収入を、指定管理者が他の事業等で利用する口座とは別の口座で管理しているか。	○	別の口座で管理している。	○	指定管理業務に伴い発生する経費に関する口座は、事業者の他の事業に関する口座と分けて、適切に管理をしていることを確認した。
・個人情報保護法等の関係法令に基づき個人情報保護に関し必要な措置を講じているか。	○	必要な措置を講じている。	○	個人情報保護法及び関係法令の目的等を踏まえ、適切な措置を講じていることを確認した。
・労働基準法等の労働関係法令を遵守しているか。	○	労働関係法令を順守している。	○	労働基準法等関係法令を遵守し、管理運営業務に従事する者の労働に関する権利を保障していることを確認した。
・職務の執行に対する意見、要望等の記録等に関する条例に基づき記録等の対応を行っているか。	○	記録は適切に行っている。	○	記録等の対応を行っていることを確認した。
・指定管理者が業務に伴って作成し、又は受領した文書等に関し、文書管理に関する規定等を定め、適正に管理・保存しているか。	○	文書は適切に管理している。	○	管理規定等を定め、適正に管理・保存していることを確認した。
・募集要項12ページに記載している「環境への配慮」が適切に行われているか。	○	「環境への配慮」が適切に行われている	○	グリーン購入を推進するなど、環境への配慮が適切に行われていることを確認した。
・適切な保険に加入しているか。	○	適切な保険に加入している。	○	施設・事業における事故に備えるために、適切な保険に加入していることを確認した。
・指定管理者名と設置者としての市の連絡先を施設内に表示するとともに、利用料金表等に明記しているか。	○	明記している。	○	各表示は随内に表示していることを確認した。
・障害者法定雇用率が達成され（又は達成に向けて取り組み）ており、募集要項13ページに記載している障害者差別解消に関する取り組みが行われているか。	○	障害者法定雇用率はクリアしている。	○	障害者法定雇用率を達成していること、障害のある利用者に対する合理的配慮の実施など障害者差別解消法に基づく対応を確認した。
・利用者に対するアンケート等、利用者ニーズの情報収集を適切に行うとともに、その結果を踏まえて改善に取り組んでいるか。	○	アンケート結果や利用者からの直接いただく意見などを参考にし、利用者のニーズを解析し、備品の購入検討やサービス改善案を実施していく。	○	利用者アンケートを実施し、利用者のニーズを解析し、業務改善に取り組まれていることを確認した。
・事業報告書、日報・月報等を遅滞なく市に提出するとともに、業務の実施状況が適切に報告されているか。	○	報告書類は遅延なく適切に報告している。	○	事業報告書、日報・月報等を遅滞なく提出され、適切に報告されていることを確認した。
・施設や設備等の修繕に関して、実施記録や要修繕箇所の把握が適切に行われており、適宜、市に報告されているか。	○	修繕が必要な箇所は事前に所管課に相談報告の上実施し、完了後も報告している。	○	修繕に関して、実施記録や要修繕箇所の把握が適切に行われており、適宜、市に報告されていることを確認した。

評価項目 1 (3) の評価基準		
S	全ての項目が適切に実施されており、かつ、特に優れた点が見られる	全ての項目が○、かつ、特に優れた点が見られる
A	全ての項目が適切に実施されている	全ての項目が○
B	一部改善が必要であるが、概ね適切に実施されている	△が1個以上
C	不適切な点があり、直ちに改善を求める	×が1個以上

評価項目1 業務の履行状況 (3) 募集要項・仕様書記載事項等に関する事項の評価（所管部署）	A
--	---

2 業務の継続性・安定性

評価ポイントごとの評価基準	
○	適正（適切）である
△	一部改善が必要であるが、概ね適正
×	不適正（不適切）である

評価ポイント	指定管理者による一次評価		所管部署による二次評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由
・応募の資格に抵触する事項はないか。	○	抵触する事項はない。	○	応募資格に抵触する事項はないことを確認した。
（監査報告書等）				
・会計手続きが適正に行われていることが確認できたか。	○	適正に行われている。	○	会計手続きが適正に行われていることを確認した。
（監査報告書等）				
・事業の存続に関わる異常事項が指摘されていないか。	○	指摘されていない。	○	異常事項が指摘されていないことを確認した。
（貸借対照表）				
・資産・負債の中に大きな前期比増減がない。／ある場合、その理由は妥当か。	○	適正である。	○	大きな前期比増減は生じていないことを確認した。
（損益計算書等）				
・安定した収益をあげられているか。（赤字となっていないか。...）	○	適正である。	○	安定した財務状況となっていることを確認した。
・施設の収支状況（自主事業の収支を含む）が安定しているか。（赤字の場合は、その赤字分を継続的・安定的にカバーできる財務状況となっているか。）	○	適正である。	○	安定していることを確認した。
・その他、団体の経営に影響する要素はないか。	○	影響する要素はない。	○	団体の経営に影響する要素はないことを確認した。

評価項目2の評価基準			
S	継続的・安定的にサービスを提供できる状態であり、かつ、特に優れた点が見られる	全ての項目が○、かつ、特に優れた点が見られる	
A	継続的・安定的にサービスを提供できる状態である	全ての項目が○	
B	一部改善が必要であるが、概ね継続的・安定的にサービスを提供できる状態である	△が1個以上	
C	不適正（不適切）な点があり、直ちに改善を求める	×が1個以上	

評価項目2 業務の継続性・安定性の評価（所管部署）	A
---------------------------	---

3 指定管理者による一次評価（総括）

一次評価コメント

<生涯学習交流センター> 令和6年9月の新規開館から約1年半が経ちました。諸室の利用状況・利用率は現在も高く（年間の利用率は平均83％）、昨年度をさらに上回る勢いで利用いただいております。そして交流ロビーも終日にぎわいを見せるなど、引き続き市民の皆様「交流の場」・「学びの空間」として、親しみをもって利用していただけている状況が見て取れます。昨年度まではやや低調傾向のあった夜間利用についても、今年度に入り平日や土曜日は予約で埋まる日も増えており、平日には「すべての区分が予約で埋まる」という日も珍しい状況ではなくなってきました。 こうした状況は単純に「場としての利用」だけでなく、「生涯学習を修める」「学びの機会を増やす」べく、我らセンターが様々な角度・年代へアプローチした自主事業イベント（初心者向けワークショップの開催、交流ロビーでのふらりと参加しやすい形で工作・モザイクイベント等）の実施をしてきた成果であるとともに、何より「生涯教育のまち・枚方」の市民の皆さまのなかにある、「学びたい」「繋がりたいたい」「成長したい」という気持ちの表れかと思います。 上半期には枚方モールのイベントである「アランドムらかた」のコンテンツのひとつとして行った、令和7年9月の「ロビーコンサート EnsembleQoo木管五重奏」では全2回の参加者が約200人と過去最高を記録するなど、センターが入る商業施設「枚方モール」のイベントにぎわいを当センターの利用者へと還流し、「交流センターからビルへ」という人の流れを生み出すことができました。同じく同月実施の「センターまつり」でもある開館1周年記念イベントの「(k)not hirakata2025」によき」では、日頃交流センターで活動されている団体やサークルの皆様が活動発表の場としてだけでなく、近隣市の住民や沿線の住民といった「関係人口」増加への1つの施策として、地域の方の協力も得て、地域の方の協力も得て大小さまざまなイベントを10本以上用意し、イベント参加者のみで2日間延べ1,000人以上の方にお越しいただきました（全来館者数は2日間で約4,000人）。こうした流れは下半期も続き、令和7年12月実施の「クリスマス ハンドベル ロビーコンサート」では定員の倍以上になる100人超の参加者に上質な音楽を気軽に楽しんでもいただくことが出来ました。また令和8年1月実施の「親子クラシック」、2月実施の「楽器で楽しむファミリーコンサート」では、普段センター利用の少ない30～40代のファミリー層を大幅にセンターに呼び込み、利用のきっかけを作ることに成功しました。その他、下半期では「カリグラフィー講座」「パッチワークでブックカバー」「初心に返るハード&メタル・ロック」といった初心者向け講座もジャンルや内容、を幅広く取りそろえて、様々な属性・年代・性別の利用者に「初めての生涯教育」に触れるきっかけを提供し、好評を博しています。年間通じ、これらの多数のイベントを通じて「もっと枚方を知り、そして好きになる」きっかけを、沢山の方に提供できていたと考えております。 今後も「気軽に参加できる」、そして「他にはない魅力的な講座・イベント」の企画・運営を通じて、この街に住む人々、この街に集う人々の生涯教育・社会教育への興味関心を育て、地域のブランド価値をさらに高めるような運営を行ってまいります。
<市駅前図書館> オープンから1年以上が経過しましたが、利用件数・貸出冊数ともに上昇傾向にあり、下半期の1日あたりの実績は前年度対比で利用件数【111.6％】、貸出冊数【108.2％】と大きく上昇しています。予約件数も好調で下半期は前年度対比で【126.1％】とこちらも大きく上昇しており、市民の皆様にも順調にご利用いただいているものと考えております。また枚方市駅設置の予約資料受取ロッカーの実績も、前年度対比で利用件数【115.8％】、貸出冊数【121.4％】と大きく増加しており、市民の皆様にも利便性が広まりつつあるものと考えています。一方、貸出冊数における自動貸出機の利用割合は、下半期実績で【30.4％】と他の分館と比べると低迷しており、自動貸出機の利用比率を上げる方策を考えていく必要があります。今後図書館利用ガイダンスの機会に参加者に周知するとともに、スタンパリーなどのイベントを通じて利用促進を図ってまいります。 下半期も、定例の図書館事業に加え、京阪電車主催の「13000系かんしゃトーマス号ラストイベント」などの外部イベントに参加いたしました。また、大阪府立高等学校生徒のPOP展示やT-SITEと共催で開催した作家の対談イベント、枚方保育所に訪問して実施した「おもでと、いちねんせい」など、外部団体と積極的に連携を行い事業を展開してまいりました。従来の図書館にとらわれず、積極的に外に出ていくことにより、図書館利用者の枠組みを超えて読書推進活動を行うことが、地域全体の文化の発展に寄与することであると考えております。今後も外部団体との連携を積極的に推し進め、市駅前周辺での図書館のプレゼンスの向上、読書推進を図ってまいります。 ボランティア事業では、上半期にはおはなし会・排架グループそれぞれに研修会を実施し、下半期から本格的に活動を開始していただいております。ボランティアによるおはなし会は、下半期で5回開催し、そのうち4回は研修会に参加したボランティアによるおはなし会となっております。おはなし会に不慣れな方もいらっしゃいますが、皆様一生懸命にお話をいただき、参加した子どもたちにも楽しんでいただいております。また書架整理や排架作業については、下半期で延べ80人の方に参加していただき、書架のメンテナンスに役買っていただいております。今後も図書館をきっかけとした市民の社会貢献活動を後押ししてまいります。 下半期も地域の皆さまや利用者の皆さまの助力を得ながら、イベントやボランティア活動など、多様な取り組みを進めることができました。図書館が市内のさまざまな組織や個人と繋がることにより、市民に還元できていることを感じております。次年度も皆さまに気軽に立ち寄っていただける図書館を目指し、親しまれる居場所づくりに努めてまいります。

4 所管部署による二次評価（総括）

(1) 評価項目ごとの評価結果及び総合評価

評価項目		評価結果
1 業務の履行状況		
	(1) 選定時の基準（確認事項）・事業計画の内容（目標）に関する事項	A
	(2) 施設の管理運営に関する経費の収支状況（使用料の収入実績を含む）	A
	(3) 募集要項・仕様書記載事項等に関する事項	A
2 業務の継続性・安定性		A

総合評価の考え方

評価項目ごとの評価をそれぞれS＝4点、A＝3点、B＝2点、C＝1点として4項目（または3項目）の合計点数を算出し、そのうち「C」評価が1つ以上ある場合はその合計点数から1点減点し、下表の区分により総合評価を決定する。ただし、評価ポイントにおいて「1」や「×」となった理由が重大な内容である場合は、総合評価を「C」評価とする。

点数・評価対応表	
評価項目ごとの評価をそれぞれS＝4点、A＝3点、B＝2点、C＝1点として4項目（または3項目）の合計点数を算出し、そのうち「C」評価が1つ以上ある場合はその合計点数から1点減点し、下表の区分により総合評価を決定する。ただし、評価ポイントにおいて「1」や「×」となった理由が重大な内容である場合は、総合評価を「C」評価とする。	
総合評価	点数
評価項目が4つの場合 (順不同)	16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3
	SSSS SSSA SSSB SSAB SSSB SABB AABBBB AACC ABCC ACCC BCCC CCCC
	SSAA SAAA SAAB AABBBB SCCC SACC ABBC BBBC BBCC
	AAAA SSAC SSSC SAAC AAAC SBBB
評価項目が3つの場合 (順不同)	12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2
	SSS SSA SSB SAB SBB ABB BBB SCC ACC BCC CCC
	SSA SAA AAA AAB AAC SBC ABC BCC
	SSC AAC

(2) 二次評価コメント

＜生涯学習交流センター＞

1周年を迎える現在、計画どおりの安定した事業運営をされています。利用者へのアンケート結果からも、施設のきれいさと並んで施設職員の接遇の良さを評価する声が多く寄せられており、満足度の高さにつながったものと考えます。合わせて立地の良さからも諸室の利用率が非常に高いものになっています。図書館の利用者と共用されるロビーの賑わいや、イベント利用の多さ等が原因で、利用者の不満・要望への対応や調整にあたることも多いと思いますが、引き続き丁寧な対応に努めていただきたいと思います。

イベントについても、職員講師による講座から著名人によるセミナーまで多種多様の事業を実施していただけており、交流センター色を出した事業を企画・実施されている点は評価できるものです。特に、連携事業では、市民・地域・民間の各方面と地域連携を図り、生涯学習市民センターを通して「街のにぎわいづくり」につながる事業展開がされていました。市民や地域を巻き込むことにより、施設・地域・市民がともに成長・発展できる関係が生まれることと思いますので、引き続き注力していただきたいと思います。また、ロビー事業では、訪れた人が気軽に参加できるレパートリー豊かなメニューを用意され、人気の催しとして確立されてきていますので、今後においても「交流センターに来れば、何かやっている」「面白い何かに出会える」ような魅力的な企画を期待しています。一方、初心者向けワークショップ等では、幅広い層をターゲットに据えて企画され、中でも「ロードバイクに乗ろう」や「盆栽×ジオラマで作る！手のひら「盆」ラマ」ワークショップといった従来のセンターでは見られないような企画が見られました。若年層の参加者を拡大することは、市のセンター全体の課題となっているところですので、引き続き、若年層を念頭に置き工夫を凝らしていただきたいと思います。年間の事業数については規定数量以上の実施を計画していただいていますので、次年度以降も計画どおり事業を推進していただきたいと思います。

＜市駅前図書館＞

1周年を迎え、京阪枚方市駅直結という立地条件もあって利用も増加傾向にあり、予約受取ロッカーの稼働率も高く、市民からの認知度もかなり上昇してきたのではないかと考えます。また、6階のまるっとこどもセンターとの連携事業として乳幼児検診時に図書館が継続しておはなし会を実施する取組みは、子育て世代の利用にも繋がってきており、評価できるものです。さらに図書館での乳幼児とその保護者を対象としたおはなし会などのイベントも積極的に実施されている点も評価できます。今後も子ども読書活動の推進に向け、まるっとこどもセンターとの連携強化を図りながら、立地の特性を生かしたサービスの展開を期待します。また、レファレンスサービスの提供や丁寧な利用者対応を含めた基本的な図書館サービスに加え、多数のイベント・行事を企画・実施するだけでなく、積極的に外部イベントへの参加、連携などを実施され、市立図書館のPR、利用者増大に貢献されていると認識しています。電子図書館については、今後、効果的な取組を計画いただき、利用の拡大を進めていただきたいと思います。また、ボランティアとの協働においても、図書館に関心を持っていた市民と図書館サポーターとして良好な関係を築いていただきたいと思います。今後も駅前の商業施設と併設という特性を生かした、使い勝手のよい新しい形の市民に必要とされる図書館として機能されるとともに、従来の図書館のイメージの殻を打ち破る斬新な活動を期待しています。

5 改善指示への対応状況

これまでの定期モニタリング、日常モニタリング、外部評価その他監査等の結果をふまえて市が改善指示を行った事項について確認してください。

指示を行った時期	内 容	対応状況
	該当なし	

6 添付資料

◆収支・利用状況